平成７年度農林水産補助事業
木材技術専修センター事業
木造建築担い手育成事業

平成７年度木材技術専修センター事業
研修企画運営委員会報告書

平成８年３月

財団法人　日本住宅・木材技術センター

はじめに

「21世紀の住宅建設」に視点をあて、わが国の現状をみますと、木造住宅建設の将来は決して楽観しうる状況にありません。

その理由の一つとして、今後わが国の社会経済がさらに発展していくと、その労働人口の多くは第3次産業に吸収されてしまうだろうと予測される中で、木造住宅供給の中心的担い手である大工技能者等の熟練技能者の不足と、新規入職者の減少は極めて深刻な問題であります。

加えて建築物に対する消費者ニーズの多様化、高度化等需要環境も変化しつつあり、適切な対応を求められるところでありますが、対応力の低下が指摘されており、木造住宅の需要の維持及び木造住宅の部材供給を大きな目標にしている、国内林業への影響も懸念されるところであります。

このような背景のもとに、平成3年度より行政の支援を得て木材技術専修センター事業が発足し、大工・工務店の事業環境を再構築し、木造建築の担い手を育成するうえで必要な次の事項に重点をおき、平成7年度まで全国各地で研修会等を実施してまいりました。

①新規入職者への対応
②大工・工務店に対し新知識・新情報の提供
③　〃　の経営手法のあり方
④　〃　の後継者育成対策
⑤木構造設計技術の向上

これまで、5カ年間の実施状況をみますと、実施団体及び受講者の熱意の結集として、実に16,000人が参加しており、この事業が多くの担い手側に新しい知識や情報を、もたらしたのではないかと思います。

木材技術専修センター事業は、平成7年度をもって一区切りとなりますが、本来育成事業は息長く継続することが望まれるものであり、今後とも関係各位の一層のご理解とご協力のもと、本事業の趣旨である「木造住宅建築担い手育成」がそれぞれの地域において根ざしていくことを切に願うとともに、その動向を見守っていきたいと思います。

本年度の「木造建築担い手育成研修」の実施にあたり、ご指導、ご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成8年3月

財団法人　日本住宅・木材技術センター
理事長　　岡　　勝　男

目次

はじめに・・・1
まえがき・・・3
委員会名簿・・4

第１章　木材技術専修センター・平成７年度実施研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
１．木材技術専修センター事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
１－１．背景及び主旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
１－２．事業の内容及び実施事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
１－３．木造建築担い手育成研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
１－４．木構造設計技術向上講習会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
２．木材技術専修センター事業としての木造建築担い手育成研修・・・・・・・・・・・・・・・・・9
２－１．カリキュラムの類型・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
２－２．本年度カリキュラム企画について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
２－３．本年度の事業実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
木造建築担い手育成研修プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

第２章　受講者アンケート結果から見る専修センター事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
１．参加回数・・29
２．過去の研修会開催を知っていたか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
３．参加できなかった理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
４．受講者の勤務先業種・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
５．従事している仕事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
６．受講者の立場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
７．取り扱っている建築構造の種別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
８．１年間に取り扱った住宅棟数（軸組）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
９．研修全体への評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
10．研修参加希望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

第３章　研修事業の総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
１．本事業の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
２．フォローしえなかった諸点について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
３．研修事業の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
４．本事業の拡大的継続の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
４－１．本事業の果たす役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
４－２．最も重要な支援策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
５．拡大発展の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
５－１．中学校・高等学校の教員に対する研修の必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
５－２．技能者の中学校・高等学校への臨時講師派遣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45

資料・・・46

まえがき

建設省が建設産業政策大綱を出してから約一年、さまざまの業界がそれぞれのヴィジョンを描いているところである。

政策大綱は建設業の目指すべき三つの基本目標を掲げている。その一番目は、ユーザーに対してよいものをトータルコストで安く提供することである。トータルコストとは最初の建設費だけでなく、保全や管理費用を含めたもので、その意味でよいものならば安いと言える。

三番目の目標は技術者も、特に技能者もよい人材が生涯を託せるような状況を整えようというものである。

これらの目標は実は当たり前のことで、お客の要望に応えられないようでは産業・企業の存在理由がないし、あげた成果は働く人にも円満に分配しなければ公平と言えない。

しかしひとつひとつは当たり前としても、例えばこの二つの目標を両立させるのは相当に難しいことである。よい人材を導き入れ、定着してもらうためには誰でも分かるように労働条件をよくする必要がある。賃金を上げ、危険を少なくし、労働時間を短くする等々。ところでこれには費用がかかるのである。一方では安くあげなくてはいけない。

通常この難題を解くのは生産性を上げることだと言われている。これも口で言うのは易しいが、実際には難しい。今までの生産性向上は往々にして、働く側に厳しいものになりがちだった。直接に労働密度を高めるということもある。また熟練労働を分解して、単純労働の分業的集合とすることもあった。この場合、単能工は養成に時間も費用もかからない。つまり安い。さらにこうした労働は機械に置き換えることがより容易になる。近代のライン労働はこうした経過をたどった。その結果熟練労働は工程から疎外され、現場労働は単調で、内容に乏しく、ある場合非人間的なものとなる。この方向で、働く人は働くことで幸せにならないし、志気は低くなる。そのことの自覚が現代の労働を考える際のむしろ出発点ですらある。

建設の労働にはそうではない熟練の部分がかなりの程度に存在している。熟練はその内部に仕事の設計、道具の工夫、出来形の評価など一連の内容を持ち、隣接した職種やお客など外部との折れ合いを正しくつける倫理の関係も持っている。これがほんとの意味でよいものを安くつくる途でない筈がない。

木造建築担い手育成研修は今年度で終わる。熟練の再評価、再興のためにこの事業が小さいかも知れないが、何ほどかの寄与を果たしたことを信じたい。

研修企画運営委員会
委員長　古川　修

研修企画運営委員会委員名簿

（順不同・敬称略）

委員長	古川　修	（財）建築コスト管理システム研究所	理事長
委　員	太田　邦夫	東洋大学　工学部　建築学科	教授
	藤澤　好一	芝浦工業大学　工学部　建築工学科	教授
	吉沢　健	（社）全国中小建築業団体連合会	常務理事
	西谷　嘉寿夫	（社）全国木材組合連合会	専務理事
	中村　喜三郎	（社）日本建築大工技能士会	専務理事
	野辺　公一	（株）オプコード研究所	代表取締役
	林　裕司	全国建設労働組合総連合・技術対策部	副部長
協力委員	長江　恭博	林野庁林政部林産課	課長補佐
	関　充利	〃	〃
	臼井　浩一	建設省住宅局木造住宅振興室	課長補佐
	小林　重善	〃	係長

第１章　木材技術専修センター・平成７年度実施研修会

１．木材技術専修センター事業概要

１－１．背景及び主旨

わが国の木材需要中枢は建築用材であり、今後充実してくる国産材資源を有効利用していくためには、木造住宅の振興が緊要の課題となっている。

しかしながら、木造住宅を取り巻く状況は、木造住宅建築の担い手である大工技能者の労働力不足が顕在化し、また若年労働力の減少と高齢化が進むなかで技能の衰えが懸念されるなど、現状の木造住宅供給組織の先行きには深刻なものがあり、諸般の対策が望まれているところである。

現状をふまえ本事業においては、木造住宅建設の担い手の育成に重点をおき、新規参入者の育成、現存技能者のレベル向上に役立つ研修のほか木構造設計技術講習を実施し、ひいては、地域における国産材資源の有効な利用促進に資するものとする。

１－２．事業の内容及び実施事項

地域材住宅部材化活動促進事業

事業主体：（財）日本住宅・木材技術センター

１－２－１．木材技術専修センター事業

①研修企画運営委員会

研修企画運営委員会は学識経験者、木材関連業者、建設業者、研修担当者等を構成員とし研修実施に必要なカリキュラムの編成方針並びに所要の指導助言を行う。

②木造建築担い手育成研修

大工等技能者の減少、高齢化、技能の低下等に対応した在来軸組工法住宅建築の担い手の育成並びに技能の向上を図るための研修を行う。

③木構造設計技術講習

設計技術者の木構造設計技術の向上を図るための講習を行う。

事業の実施については関係省庁・都道府県及びその関係機関と連携を図りながら住宅・木材関係団体（全建連・全建総連・木住協・ビルダー協会・技能士会・全木連・設計集団・地域協力者等）との共催または協賛を得ることとする。

１－３．木造建築担い手育成研修

１－３－１．方針

技能者の育成及び技能向上については、次のことを基本とする。

①新規入職希望者を対象とするガイダンスまたは訓練に必要な研修

②現存技能者の技能レベルアップまたは意識の高揚に必要な研修

③大工・工務店の二世等を中心とする技能・経営についての研修

１－３－２．実施単位

事業に賛同・協力を得られる団体及び地域協力者と連携、各都道府県１グループ程度を目標とする。

１－３－３．研修計画

1）プログラム

標準カリキュラムに団体及び地域の意向を加え編成する。

2）構成

①集合型

ア．コースの設定は、概ね次のように設定することを基本とし具体的には、関係団体等と意思疎通を図り地域の実情に即した型で設定する。

（ア）集中型：平日（午後）～土（午前）の丸４日間

（イ）土日型：土日の４日間

（ウ）日曜型：日曜日のみ（または土のみ）の４日間

（エ）その他：地域の実情に対応した受講者の参集しやすい型

イ．上記は実質４日間を単位として約１カ月で完結することを原則とするが地域の実情が、これによりがたい場合には弾力的運用を図る。

ウ．研修は一定の場所（現地見学を除き）で、50 人程度を対象として行う。

②個別型

協力を得られる棟梁へ数名を対象に長期間教育

3）事業の運営

ア．事業の実施について住木センターは研修内容の整備・準備及び運営等を行う。

イ．関係団体には地域における研修が円滑に運ぶよう協力をお願いする。

１－３－４．平成７年度実施研修会

平成７年度の実績については表－１としてこれをまとめた。

表－１　平成７年度　木造建築担い手育成研修実施状況

地　域	期　　間	日　数	参　加 延人数	名簿登 録人数	講師数	場　　所
岩　手	1/25 、 1/26	2	83	42	5	二戸市　二戸地域職業訓練センター
宮　城	2/27 、 2/28	2	182	92	5	仙台市　仙台地域職業訓練センター
栃　木	11/11 、 11/25	2	121	119	3	宇都宮市　栃木県河内庁舎
東　京	10/22 、 11/12	2	119	192	2	新宿区　東京都中央労政会館　／　八王子市　八王子労政会館
長　野	10/27 ～ 1/23	3	79	39	9	岡谷市　長野県女性総合センター
福　井	2/6 、 2/16	2	114	50	5	福井市　福井県木材会館
愛　知	11/21 、 11/28	2	77	43	5	名古屋市　ウッドリーム愛知
滋　賀	2/7 、 2/8	2	64	38	4	守山市　琵琶湖プラザ
大　阪	2/3 、 2/4	2	84	57	5	南河内郡　ウッドリーム大阪
兵　庫	10/3 、 10/4	2	68	34	7	神戸市　兵庫県中央労働センター
奈　良	2/24 、 2/25	2	88	49	4	橿原市　奈良建築高等職業訓練校
鳥　取	11/25 、 12/2	2	94	41	5	倉吉市　中部建築工務士会館
岡　山	11/25 、 12/2	2	67	41	4	岡山市　岡山国際交流センター
山　口	11/17 ～ 2/16	4	142	86	6	宇部市　ウッドプラザムラタ
宮　崎	2/11 、 2/17	2	70	70	3	宮崎市　ホテル・ひまわり荘　／　串間市　串間商工会議所
計		33	1,452	993	72	

１－４．木構造設計技術向上講習会

１－４－１．実施方針

近年経済社会の成熟化に伴って、建築物に対する需要の内容は、一段と多様化、高度化する傾向を強めており、このような中で、木材のもつあたたかさなど、その特有の長所を建築物に活かしていきたいとするニーズが著しく高まりつつある。こうした要請に応えて、木構造に関する研究開発は著しく進展しており、新しい技術が次々に開発されている。

これらの研究開発の成果を基礎に、昭和62年には、大断面木構造や木造３階建て住宅の技術基準が制定された。

また平成４年３月には、木造３階建共同住宅、木造の準耐火建物等の技術基準が制定される等、木構造を取り巻く技術は、最近極めて激しい動きを呈している。

こうした状況に鑑み、関係団体と提携して木造建築物の構造計画、接合等についての最近の技術を普及するため、著名な建築家及び研究者を招き、設計者・施工者・その他業界関係者を対象に講習会を開催する。

１－４－２．平成７年度実施技術講習会

平成７年度の実績は表－２としてこれをまとめた。

表－２　平成７年度　木構造設計技術向上講習会実施状況

開催月日	講師	演題	場所	受講者
7. 8/3～8/4	藤沢好一、他	木材利用と加工の技術 他	岐阜県高根村	142
7. 11/20	稲山正弘	これからの木造建築を考える	新潟県上越市	114
7. 12/15～12/16	長沢　悟、他	地域木材の活用と公共建築	福島県南会津郡	43
8. 1/18	藤本昌也、他	木造３階建て共同住宅（軸組工法）の設計施工について、他	宮崎県宮崎市	159
8. 2/9	平嶋義彦	これからの北陸の木造建築を造るために	石川県金沢市	52
8. 3/8	新井信吉	日本伝統技術と軸組工法「耐震」について	山形県山形市	41
8. 3/22	小玉祐一郎、他	木造住宅における「環境共生住宅」の設計の実際	東京都千代田区	48
8. 3/30	鈴木嘉吉、他	平城宮跡朱雀門の復原から学ぶ	奈良県奈良市	153

２．木材技術専修センター事業としての木造建築担い手育成研修

２－１．カリキュラムの類型

本研修事業を分類すると、期間と受講対象者で分類することができる。開催のスタイルとしては、短期型－集中開催型、短期型－分散開催型となっており、本年度も長期型研修は実施されなかった。

また受講対象者は、

①現業対象型

②現業大工・工務店二世対象型

③各職を含めた伝統継承講座型

④現業女性

の４つのタイプとなっている。

開催スタイルは、集中型、分散型はあるにしても短期型であった。また、講座設定における受講対象者は、現在の大工・工務店の経営主と従業員の新知識習得を目的とした経営、新技術、技能育成を内容としたものが過半であった。

２－２．本年度カリキュラム企画について

本年度カリキュラムの特長は、平成７年１月17日未明に発生した阪神・淡路大震災によって多くの木造家屋が甚大な被害を被ったことから、木造住宅の耐震性についての知識啓蒙を行うために、その設計・施工方法を急遽メインプログラムとしてこれを配した。

本年度実施されたカリキュラムの多くは、従前のカリキュラムを踏まえたものや他地域での開催カリキュラムを参考として作られたカリキュラムが多くなっているが、そうした中で柔軟に耐震施工法等のプログラム展開が行えている。

また、平成４年度からの課題であった、部分的なカリキュラムの統一化（とりわけ乾燥材知識の啓蒙と新ＪＡＳ制度の啓蒙）を実現していくために、地域主催者と主催者サイドの綿密な連携が保たれるように主催事務局によって形づくられてきた。

即ち、地域主催者に対して主催事務局は、

①企画プログラムを提出し、研修会の狙い等を打ち合わせる。

この時点で講師等が設定できない場合は、主催者側がアドバイスをおくる。

②講師、カリキュラムを明快にしたプログラム、運営方法を確認。

粗企画を双方で相談し、主催者側の研修会意図も含めてカリキュラム、講師を選定する。

こうした手続きによって、地域独自の講習ニーズに対応しつつ、本研修事業における統一的なプログラムを導入することも可能となっている。

また、地域主催者は、カリキュラムづくりに際しては、「担い手研修ガイダンス」による講座分類を参考にしつつ、平成６年度副教材としての『新しい木造住宅づくりのための「新」基

礎知識』等を参考として、研修会プログラムが作成されてきた。

その意味では、ようやく主催者と地域主催者の連携、地域主催者のプログラム企画立案に際しての補助的なツールも充実し、副教材もこれまでの研修会の成果から作成されたものが３冊作成され、充実した研修会支援体制が整備されてきたということができるだろう。

さらに研修会参加者の満足度判定のための聴講者アンケート調査も殆どの地域で実施されるなど、地域主催者においても研修会継続に向けての情報収集などの意識も高まってきた。

しかし、本年度は最終年ということもあり実施予算の関係で、開催期間は延べ33日、１開催当たり平均2.2日となっており、殆どが短期型（最長で山口県の４日であるが、これは、過去３年間同様の研修形式となっているため）へと研修開催期間がシフトしている。

２－３．本年度の事業実績

前節の主旨に基づいて、木材技術専修センター事業は実施された。

平成７年度に実施された「木造建築担い手育成研修」は、全国15カ所において実施され、延べ1,452名（前年度1,695名）、名簿登録者実数993名（前年度1,020名）の受講者があった。

これまでの研修の実施状況については、表－３「平成３年度～７年度木造建築担い手育成研修県別実施状況」にまとめたが、この５年間の参加延べ人員累計は15,720人にのぼり、登録実人員でも累計7,457人が参加している。

本事業も５年目の最終年を迎え、平成３年度13カ所、平成４年度22カ所、平成５年度23カ所、平成６度19カ所、本年度15カ所開催となっており、平成５年度をピークに開催箇所、受講者人員もやや減少している。これは、先に記したように、実行予算の減少によって、開催地域を絞り込んだ結果生じた現象、ということができる。

しかし、過去４年間の研修実績は、木造住宅業界にとっては、大きな成果であり、本事業によって、京都などの地域から本格的な担い手育成事業が動きはじめている。また、小規模な木造住宅業態にとっては、建材メーカー等の主催する研修会への参加等はこれまでもあったが、第三者機関による非営利による研修会への参加機会はそれほど多くはなく、その意味でも本事業は、予算的な問題もあるが、一定の定着を見ている、ということができる。

表－３　平成３年度～平成７年度木造建築担い手育成研修県別実施状況

地　域	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	地　域	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
北海道		○	○			滋　賀		○	○	○	○
青　森						京　都	○	○			
岩　手		○	○	○	○	大　阪	○		○		○
宮　城	○	○	○	○	○	兵　庫	○	○	○	中止	○
秋　田						奈　良	○	○	○	○	○
山　形						和歌山					
福　島		○	○	○		鳥　取				○	○
茨　城	○					島　根					
栃　木				○	○	岡　山		○	○		○
群　馬	○	○	○	○		広　島					
埼　玉						山　口		○	○	○	○
千　葉						徳　島					
東　京	○	○	○	○	○	香　川					
神奈川						愛　媛					
山　梨			○			高　知					
長　野	○	○	○	○	○	福　岡					
新　潟		○	○	○		佐　賀					
富　山			○	○		長　崎					
石　川	○	○	○	○		熊　本					
福　井		○	○	○	○	大　分	○	○	○		
岐　阜						宮　崎	○	○	○	○	○
静　岡		○	○	○		鹿児島		○			
愛　知			○	○	○	沖　縄					
三　重						計	12	20	22	18	15

木造建築担い手育成研修プログラム

（1）岩手県研修会プログラム

期　日	研　修　内　容	講　　師
平成８年 １月25日 （木）	岩手県の住宅建築の現状に関すること	岩手県　建築住宅課 技術副主幹　　岡田　　稔
	プレカット加工に関すること	(株)オノダ 代表取締役　　小野田冨男
	木材の乾燥に関すること	岩手県林業技術センター 上席専門研究員　　東野　　正
平成８年 １月26日 （金）	木造住宅耐震性構造について （阪神・淡路大震災に学ぶ）	(財)日本住宅・木材技術センター 主任研究員　　飯島　敏夫
	規矩術入門 （さしがね使いの基本とポイントを学ぶ）	(株)土田工務店 代表取締役社長　　土田　利雄

（２）宮城県研修会プログラム

期　日	研　修　内　容	講　　師
平成８年 ２月27日 （火）	高性能住宅の計画・実践	室蘭工業大学　建築工学科 助教授　　鎌田　紀彦
	高性能住宅の設計・プランニングの実際	(有)西方設計 代　表　　西方　里見
平成８年 ２月28日 （水）	高断熱・高気密の施工実技（説明）	(有)池田工務店 池田新一郎
	高断熱・高気密の施工実技	
	仙台型高性能住宅の設計施工	内田建築設計 一級建築士　　内田　信平
	地域工務店の展望	(株)オプコード研究所 所　長　　野辺　公一

（３）栃木県研修会プログラム

期　日	研　修　内　容	講　　師
平成７年 11月11日 （土）	木造住宅の耐震性構造について （阪神・淡路大震災に学ぶ）	職業能力開発大学校 教　授　　鈴木　秀三
	高断熱・高気密住宅設計と 施工上の留意点 （地域に根ざした住まいづくり）	(有)西方設計工房 代　表　　西方　里見
平成７年 11月25日 （土）	規矩術入門 （さしがね使いの基本とポイント）	(株)土田工務店 代表取締役　　土田　利雄

（４）東京都研修会プログラム

期　日	研　修　内　容	講　　師
平成７年 10月22日 （日） ・ 11月12日 （日）	木造住宅のコスト問題と 工務店近代化のテーマ	住宅コスト問題研究会 代　表　　阿部　正行
	木造住宅の耐震問題と 木造住宅の良さをどうアピールするか	東京大学　林産学科 助教授　　有馬　孝禮

※二会場で実施（中央会場、三多摩会場）

（５）長野県研修会プログラム

期　日	研　修　内　容	講　　師
平成７年 10月27日 （金）	木材利用と品質管理について （乾燥材利用促進を含む）	長野県林業総合センター 主任研究員　　橋爪　丈夫
	最近の木造住宅構法の動向	東京大学　建築学科 助　手　　大橋　好光
	木造建築構法の基本	信州大学　社会開発工学科 教　授　　笹川　　明
平成７年 11月28日 （火）	プレカット工法研究	東京大学　建築学科 助教授　　松村　秀一
	工務店の活性化	(株)オプコード研究所 所　長　　野辺　公一
	大規模木構造の実例と展望	斎藤木材工業(株) 設計部長　　鈴木　　基
平成８年 １月23日 （火）	新しい設備や総合情報を知るために	信州大学　社会開発工学科 助教授　　浅野　良晴
	これからの木造建築	東京大学　建築学科 教　授　　坂本　　功
	施主、設計者、施工者の関連について	(株)宮本忠長建築設計事務所 所　長　　宮本　忠長

（６）福井県研修会プログラム

期　日	研　修　内　容	講　　師
平成８年 ２月６日 （火）	木の魅力をさぐる、 これからの木造建築物等について （住宅から学校等公共施設の木造、 木質化）	(株)ＲＤＡ都市建築研究所 所　長　　松葉　保利 山岸建築設計事務所 代　表　　山岸　正信
	木造住宅のコスト問題と 工務店近代化のテーマ	住宅コスト問題研究会 代　表　　阿部　正行
平成８年 ２月16日 （金）	木造住宅の耐震性構造について （阪神・淡路大震災に学ぶ）	京都大学　工学部 助教授　　東樋口　護
	製材および集成材の ＪＡＳ規格制度と改正について	全国木材組合連合会 検査部長　　阿部　庄吾

（７）愛知県研修会プログラム

期　日	研　修　内　容	講　　師
平成７年 11月21日 （火）	木造建築とＰＬ法 ・その対応について	(財)ベターリビング 住宅部品ＰＬセンター 室　長　　岡屋　武幸
	木造住宅の強度と施工技術	(有)名相建築設計事務所 所　長　　稲田　　丞
	木造建築の設計・積算のポイント （ﾊﾟｿｺﾝ、CADの活用事例を含む）	(株)東海プレカット 代表取締役　　鈴木　和雄
平成７年 11月28日 （火）	木造住宅の合理的設計・施工の考え方	住友林業(株)　住宅本部 技師長　　福本　雅嗣
	建築と木材防腐の必要性について	大日本木材防腐(株) 研究開発部長　　蒔田　　章
	工場見学 木材防腐、プレカット工法	大日本木材防腐(株) ダッズ工業(株)

（８）滋賀県研修会プログラム

期　日	研　修　内　容	講　　師
平成８年 ２月７日 （水）	木造住宅のコスト問題と 工務店近代化のテーマ	住宅コスト問題研究会 代　表　　阿部　正行
	木造住宅の耐震性構造について （阪神・淡路大震災に学ぶ）	京都大学　工学部 助教授　　東樋口　護
平成８年 ２月８日 （木）	木造住宅需要と、これからの 競争力強化方法を考える （最新住宅の売れ筋分析）	(株)空間工作所 代表取締役　　小須田廣利
	高齢者（障害者）住宅の考え方と 設計・施工のポイント	(株)お茶の水設計工房 取締役　　片岡　泰子

（９）大阪府研修会プログラム

期　日	研　修　内　容	講　　師
平成８年 ２月３日 （土）	建材・木材の５０年から見た 工務店の歴史と今後の在り方	(株)紅中 代表取締役　　中村　陽秀
	木造建築とＰＬ法をめぐる 工務店の対応策	(財)ベターリビング 住宅部品ＰＬセンター 相談課長　　吉田　茂雄
	木造住宅のコスト問題と 工務店近代化のテーマ	住宅コスト問題研究会 代　表　　阿部　正行
平成８年 ２月４日 （日）	くつろぎのための色彩計画	スタジオクリエーション ｶﾗｰ&ｲﾒｰｼﾞｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ 高木美智子
	これからの木造住宅の耐震構法と 施工について （阪神・淡路大震災に学ぶ）	木質住宅研究所 所　長　　安藤　直人

(10) 兵庫県研修会プログラム

期　日	研　修　内　容	講　　師
平成７年 10月３日 （火）	ひょうご住宅復興３ヶ年計画について	兵庫県都市住宅部都市政策課 主　査　　小松原祐二
	木造住宅の災害復興住宅融資制度について	兵庫県農林水産部林務課 事務吏員　　橋本　三成
	県産材の新たな用途開発について	兵庫県立森林・林業技術センター 次　長　　島田　忠雄
	プレカットシステムと工法	東京大学　工学部 助教授　　松村　秀一
	木造住宅のクレーム発生の実例と対策	住友林業(株)　住宅本部 技師長　　福本　雅嗣
平成７年 10月４日 （水）	木造住宅とＰＬ法について	(財)ベターリビング 住宅部品ＰＬセンター 室　長　　岡屋　武幸
	阪神大震災の木造住宅の被害状況について	京都大学　工学部 助教授　　東樋口　護
	木造住宅の耐震性構造について	

(11) 奈良県研修会プログラム

期　日	研　修　内　容	講　　師
平成８年 ２月24日 （土）	木造建築とＰＬ法をめぐる 工務店の対応策	(財)ベターリビング 住宅部品ＰＬセンター 相談課長　　吉田　茂雄
	①県産材の新たな用途開発について ②大工・工務店と材木店との 関係について	奈良県木材協同組合連合会 専務理事　　中　武兵衛門
	木造住宅の耐震性構造について （阪神・淡路大震災に学ぶ）	京都大学　工学部 助教授　　東樋口　護
平成８年 ２月25日 （日）	歴史建築物から伝統技能を現地に学ぶ （和歌山城・紀三井寺、粉河寺）	奈良県建築協同組合

(12) 鳥取県研修会プログラム

期　日	研　修　内　容	講　　師
平成７年 11月25日 （土）	住宅金融公庫融資の手続きと 融資住宅の施工ポイントと注意点	住宅金融公庫　中国支店 建築ｻｰﾋﾞｽ課　課長　　桜井清治 ｻｰﾋﾞｽ相談室　調査役　　福野恭雄
	木造住宅の設計と積算術 （契約、施工から引渡まで）	鳥取県建築士事務所協会 安本設計事務所(有) 代表取締役　　安本　大治
平成７年 12月２日 （土）	木造建築需要とこれからの 競争力強化方法を考える （最新木造住宅の売れ筋分析）	(株)空間工作所 代表取締役　　小須田廣利
	地震に強い木造住宅づくり （耐震性を考慮した家づくりと 補強方法）	(財)日本住宅・木材技術センター 技術主任　　飯島　敏夫

(13) 岡山県研修会プログラム

期　日	研　修　内　容	講　　師
平成７年 11月25日 （土）	工務店経営の近代化について	(株)オプコード研究所 所　長　　野辺　公一
	住宅の積算・見積・契約等の 基礎知識	岡山県立水島工業高等学校 建築科教諭　　小椋　康善
平成７年 12月２日 （土）	木造建築とＰＬ法・ その対応について	(財)ベターリビング 住宅部品ＰＬセンター 室　長　　岡屋　武幸
	木造住宅の耐震性構造について	京都大学　工学部 助教授　　東樋口　護

(14) 山口県研修会プログラム

期　日	研　修　内　容	講　　師
平成７年 11月17日 （金）	これからの木造住宅の耐震構造と 施工について （阪神・淡路大震災に学ぶ）	(財)日本住宅・木材技術センター 技術主任　　飯島　敏夫
平成７年 12月５日 （火）	高齢者（障害者）住宅の考え方と 設計・施工のポイント	(株)地域生活情報センター 代表取締役　　栩木　保匡
	快適住宅の考え方と設計指針 （これからの木造住宅と 快適性能を考える）	福岡大学　建築学科 教　授　　須貝　　高
平成８年 １月27日 （土）	木造住宅需要とこれからの 競争力強化方法を考える （最新住宅の売れ筋分析）	東和大学　建築学科 助教授　　永野　義紀
	木造住宅供給業態の競争力分析と これからの工務店・ビルダー	(株)オプコード研究所 所　長　　野辺　公一
平成８年 ２月16日 （金）	ＰＬ法の内容と 住宅業界に必要な対応策	(財)ベターリビング 住宅部品ＰＬセンター
	ＰＬ法対応策の具体例と質疑応答	相談課長　　吉田　茂雄

(15) 宮崎県研修会プログラム

期　日	研　修　内　容	講　　師
平成８年 ２月11日 （日）	木造住宅のコスト問題と 工務店近代化のテーマ	住宅コスト問題研究会 代　表　　阿部　正行
	木造住宅とＰＬ法について （対応策のポイントを学ぶ）	(財)ベターリビング 住宅部品ＰＬセンター 相談課長　　吉田　茂雄
平成８年 ２月17日 （土）	規矩術入門 （さしがね使いの基本と ポイントを学ぶ）	宮城県教育委員会　学校施設課 主　査　　戸高　厚志

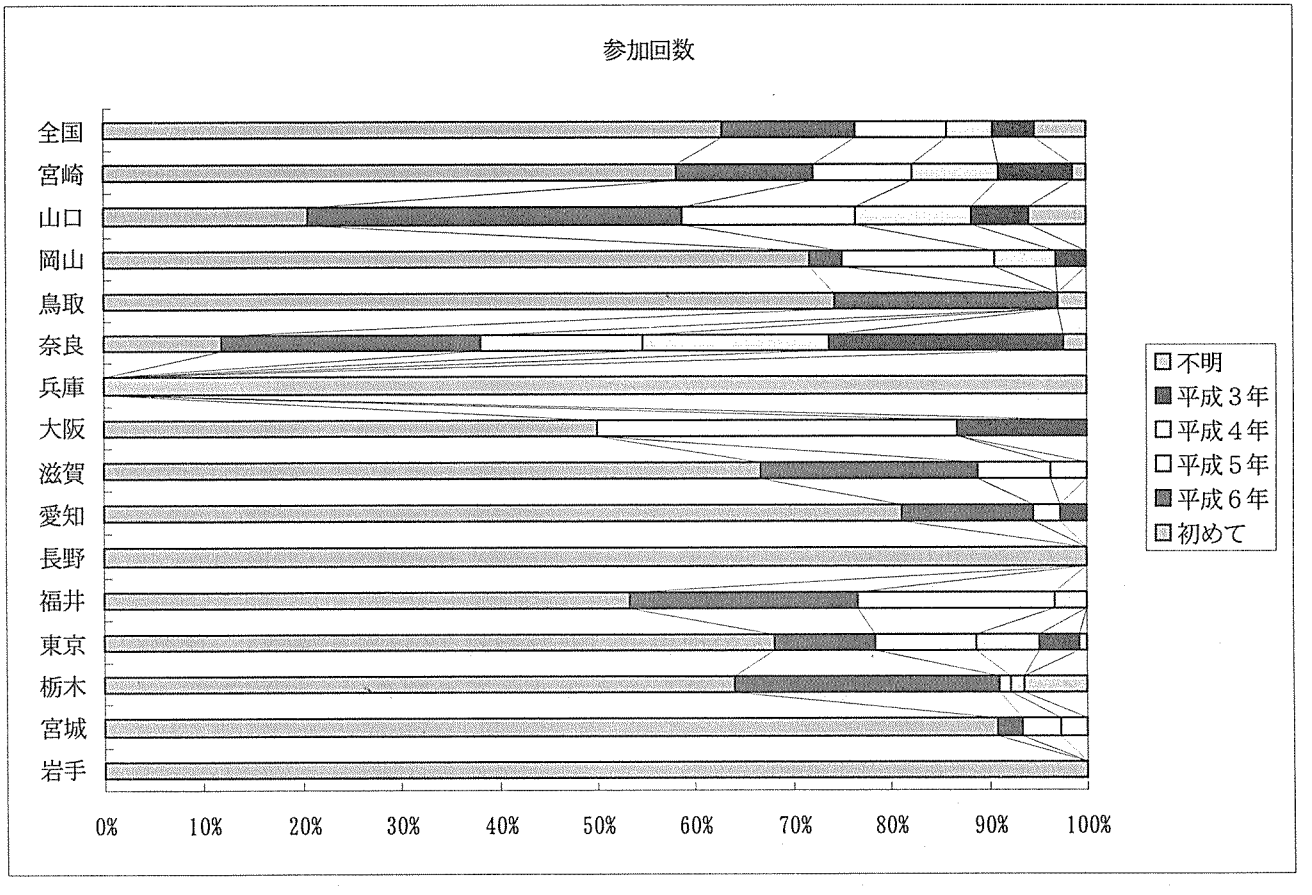
第２章　受講者アンケート結果から見る専修センター事業

先に触れたように本年度も、全国15カ所で開催された研修会場において、統一したアンケートを実施した。本年は開催全会場でアンケート調査が実施されており、受講者アンケート全716人の回答を得ることができている。

このアンケート調査結果から専修センター事業に対する受講者の評価をみることにする（以下、回答合計を全国と呼ぶ。また、不明回答もあり必ずしも100％合計とはならない）。

１．参加回数

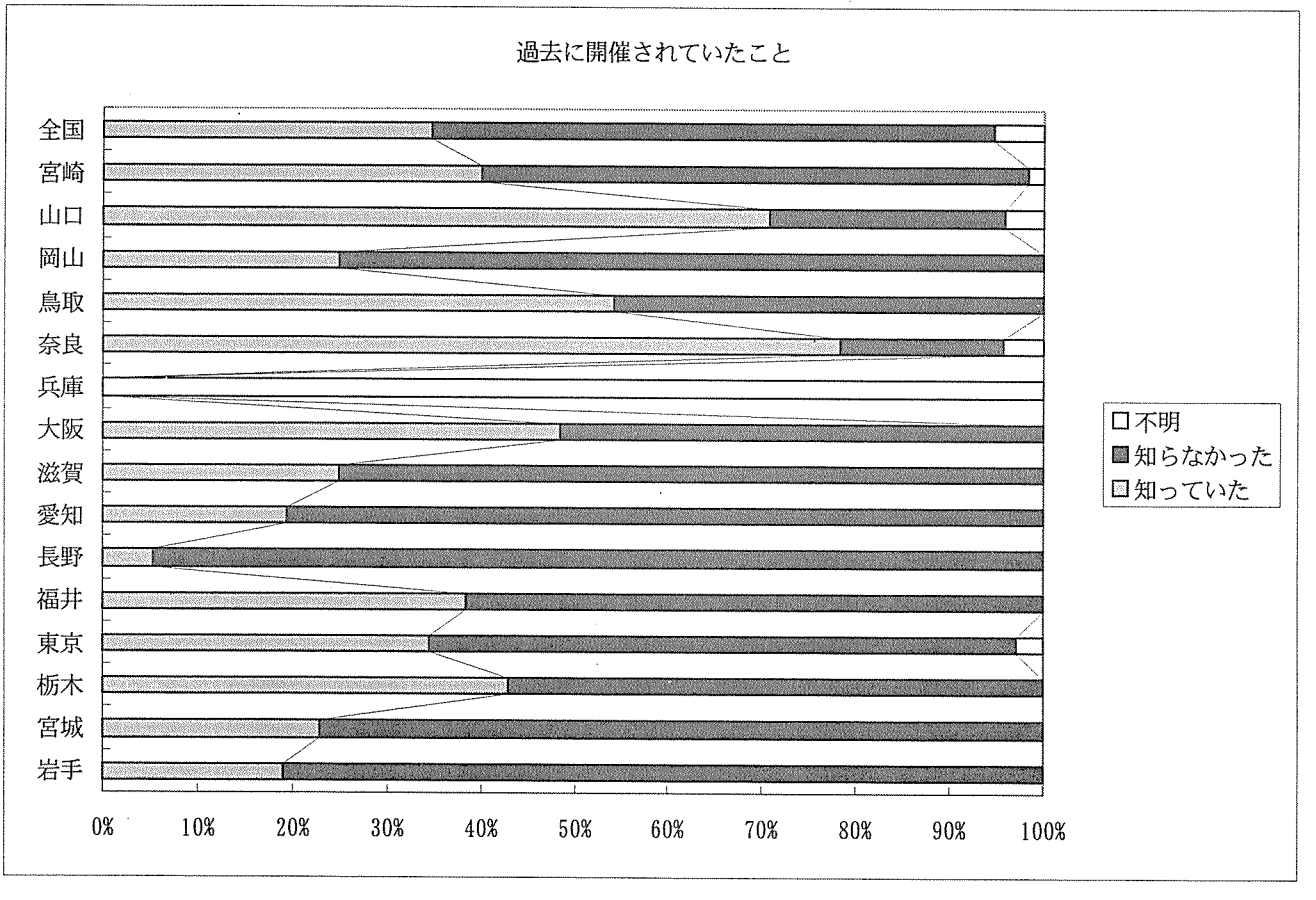
全国平均では、初めてが62.8％と過半を占めるが、複数年にわたっての参加受講者が37.2％を占めていることは、ある意味で向上訓練的な工務店「学校」としてこの研修会が機能し初めていることを示す、ということができるだろう。継続的に研修会が実施され、しかも同一会場で一貫して実施された山口県の例を見ると、初めての参加者よりも前年度からの継続的な受講者が多いというケースがあり、「定着」の状況を端的に伺うことができる。



２．過去の研修会開催を知っていたか

過去に研修会の開催を知っていた参加者は34.8％であり、知らなかったが60.0％となっている。基本的には初めての参加者が「過去の開催を知らなかった」と回答しており、開催は継続的であるが、参加者は入れ替わっている、という傾向も見ることができる。

例えば、宮城県では平成３年度より継続的に研修会が実施されてきたが、本年度は地域主催者が異なった。その結果、「知らなかった」が77.0％を占めており、地域主催者のネットワークの質量によって、参加候補者に供給できる情報が決定されることがわかってきた。その意味で、本研修会のような催しへの参加を希望しながら、開催を知らない担い手たちも多数存在していると想像でき、告知のシステムを地域主催者関連だけに絞られてしまう弊害をどのように避けていくのかもこうした事業を行う上での今後の検討課題となってきている、ということができるだろう。



３．参加できなかった理由

研修会にこれまで参加できなかった人の理由は（非該当は77.4％を構成）、仕事のためが12.1％と最も多く、開催時期、開催日時の難しさを改めて浮き彫りにしている。

４．受講者の勤務先業種

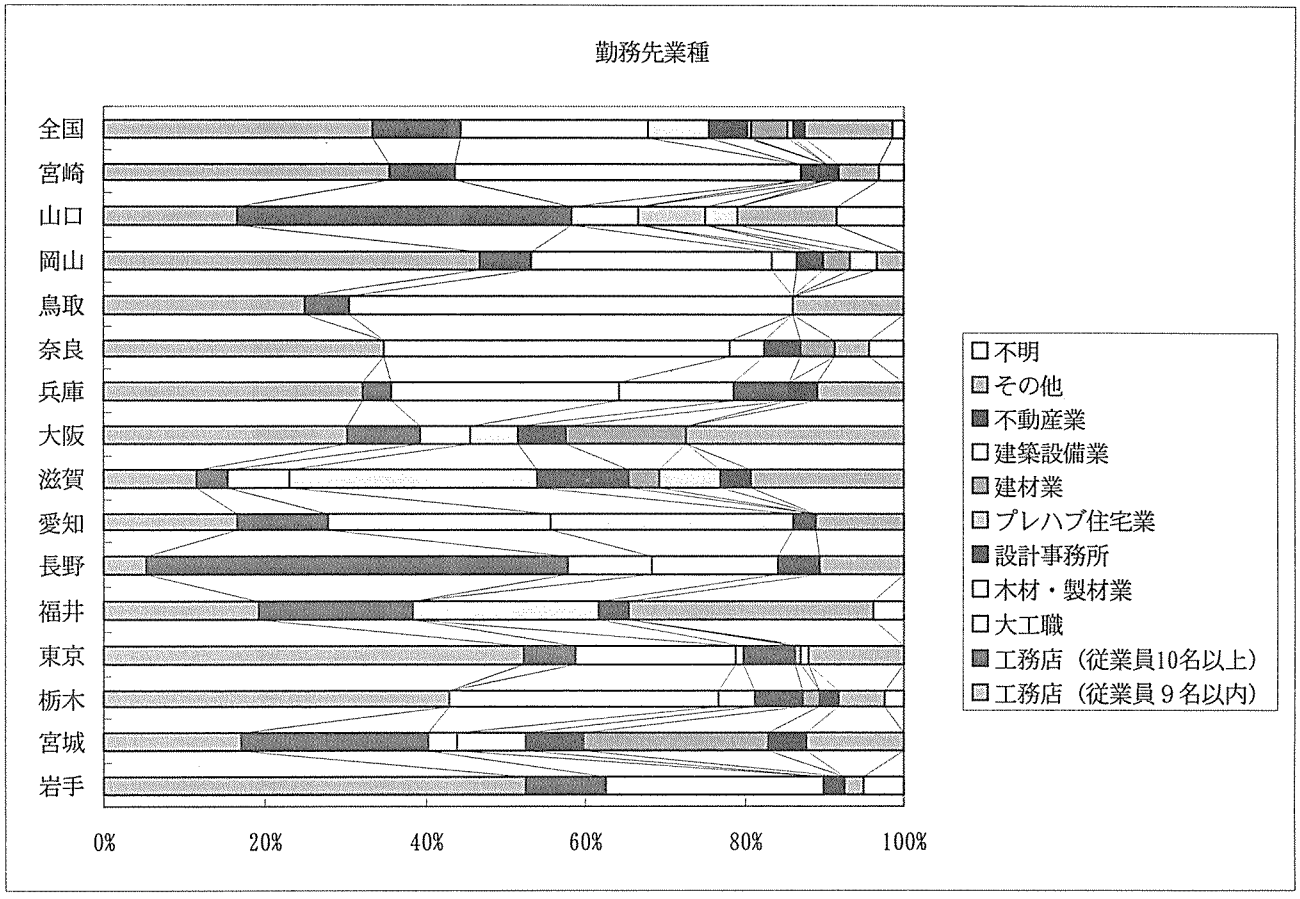
受講者の勤務先業種をみると（複数回答）、全国では工務店（従業員９名以内）が33.3％（６年度31.4％、５年度28.5％）と最も多く、次いで大工職23.5％（６年度22.3％、５年度16.0％）、工務店（従業員10名以上）11.1％（６年度11.2％、５年度18.9％）の順となっており、比較的小規模な業態での担い手の受講者が中心となっていることがわかる。

工務店（従業員９名以内）と大工職の合計の構成比が最も多いのは、岩手80.0％、栃木76.7％、奈良78.3％、鳥取80.6％、岡山76.7％などとなっている。

逆に工務店（従業員10名以上）が最も多いのは、長野52.6％、山口41.7％、宮城23.2％

などとなっている。

こうした動向をみても、本研修会が木造住宅の中心的な担い手である小規模な大工・工務店にとっての研修会として重要な役割を果たしていたことを受講者構成から伺うことができる。



５．従事している仕事

受講者の従事している仕事を全国平均（複数回答）でみると「施工・技能」30.1％（前年度26.9％）が最も多く、次いで「経営」19.2％（前年度15.0％）、「工事管理」16.4％（前年度15.3％）、「設計」12.0％（前年度14.3％）の順となっており、「施工・技能」を中心とした受講者が多いことがわかる。

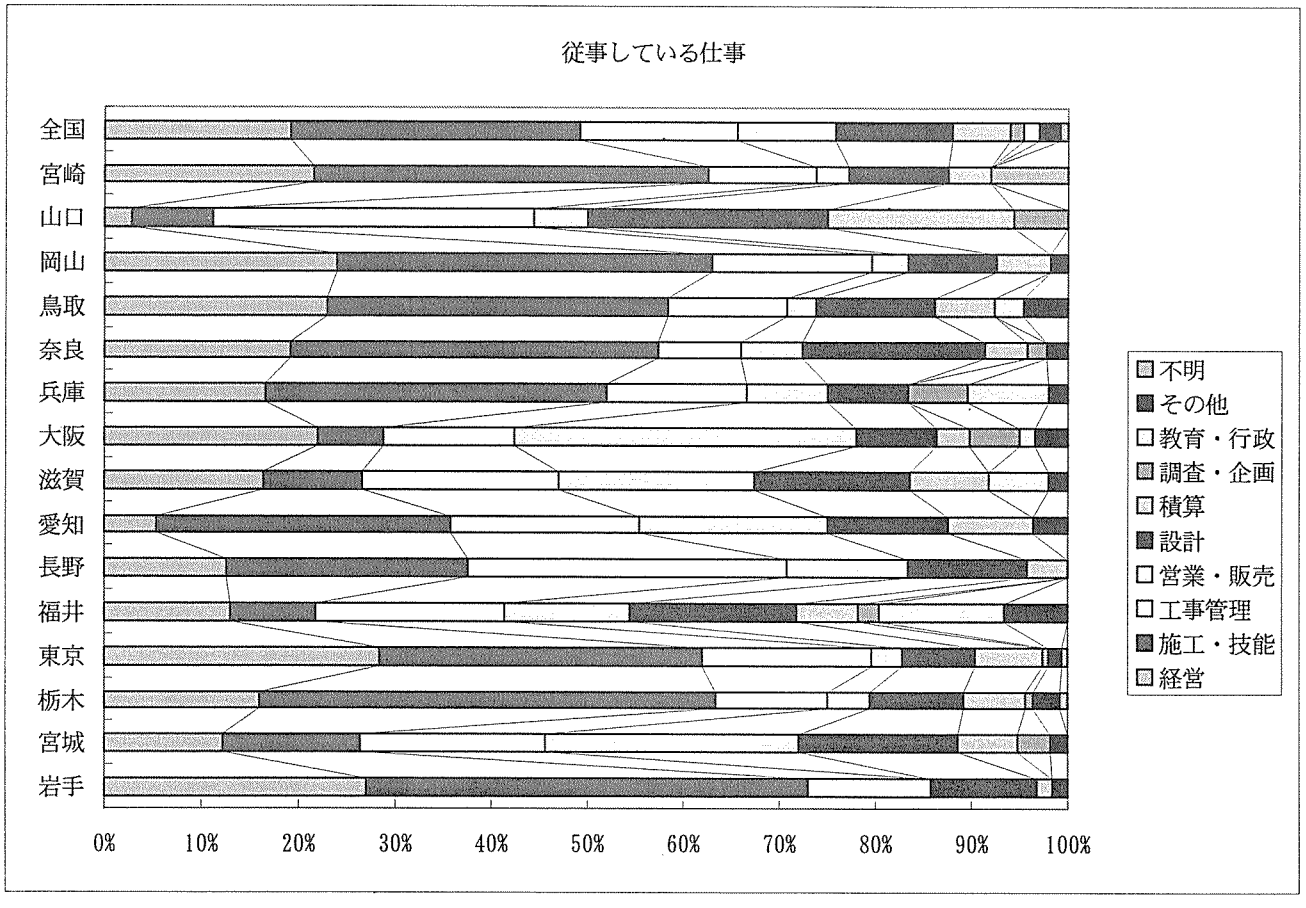
従事している仕事が「施工・技能」と答えた受講者が多い地域は、岩手、栃木、宮崎などとなっている。

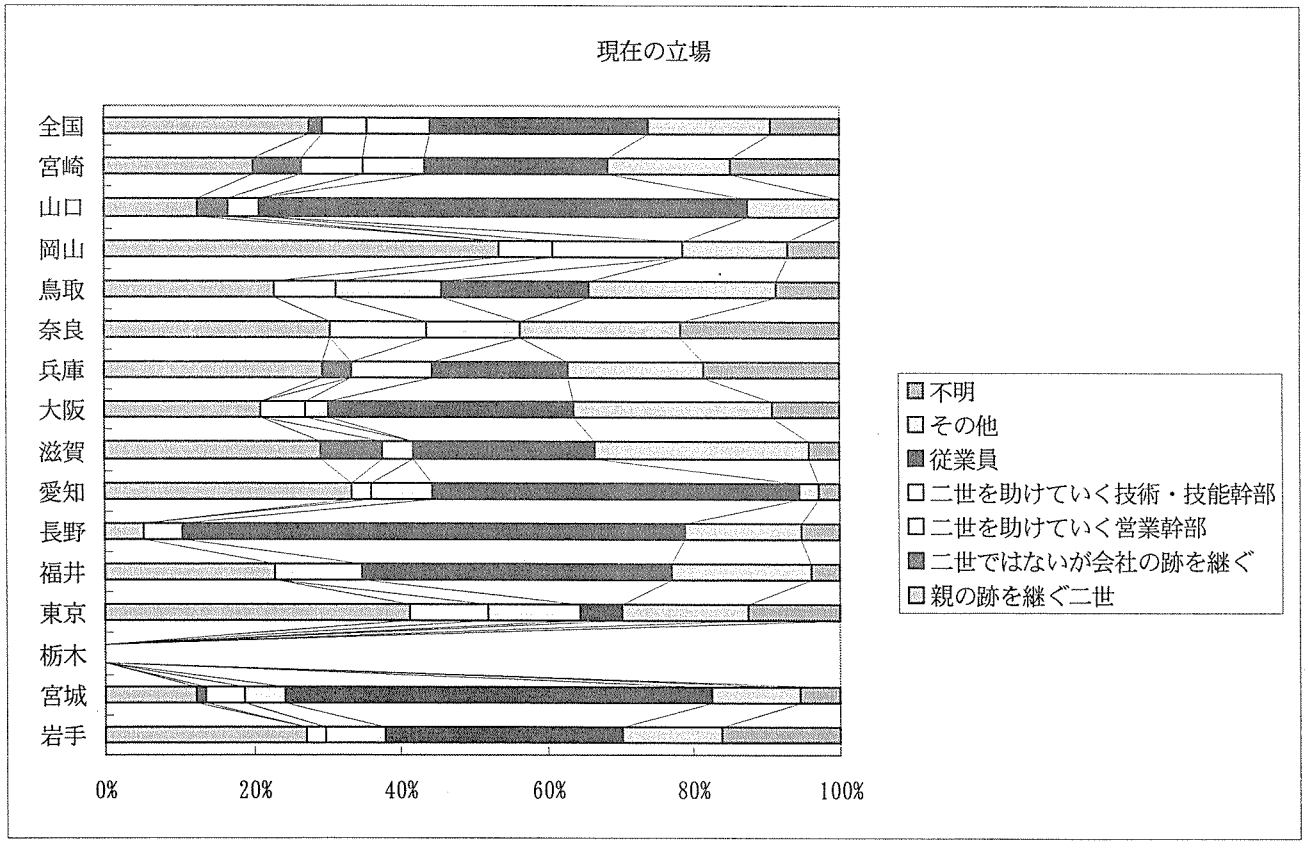
６．受講者の立場

受講者の現在の立場は、全国平均では「従業員」が最も多く34.2％（前年度28.5％）であり、次いで「跡を継ぐ二世」31.6％（前年度27.6％）が中心となっている。この内「二世」の構成比が高い地域を見ると、岡山53.6％、東京41.3％、愛知33.3％の順となっている。

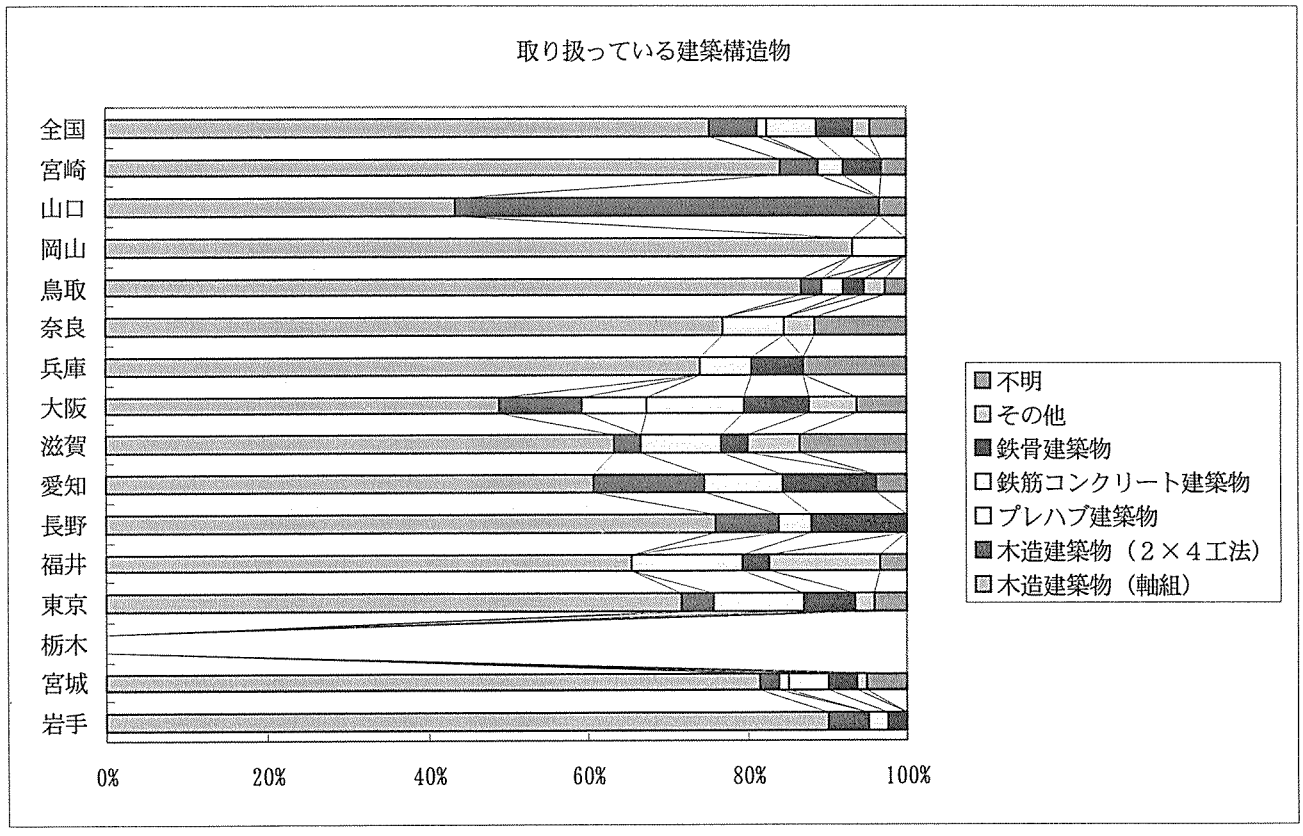
７．取り扱っている建築構造の種別

全国平均では「木造建築物（軸組）」が84.4％（６年度68.8％、５年度79.7％）と過去を参考としても最も多く、木造住宅の担い手研修にふさわしい構成となっている。


従事している仕事
全国
宮崎
山口
岡山
鳥取
奈良
兵庫
大阪
滋賀
愛知
長野
福井
東京
栃木
宮城
岩手
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
不明
その他
教育・行政
調査・企画
積算
設計
営業・販売
工事管理
施工・技能
経営


現在の立場
全国
宮崎
山口
岡山
鳥取
奈良
兵庫
大阪
滋賀
愛知
長野
福井
東京
栃木
宮城
岩手
0%
20%
40%
60%
80%
100%
不明
その他
従業員
二世を助けていく技術・技能幹部
二世を助けていく営業幹部
二世ではないが会社の跡を継ぐ
親の跡を継ぐ二世

また、「木造建築物（軸組）」の構成比が低い地域を見ると山口が43.3%、大阪49.0%となっているが、山口の場合は「木造建築物（２×４）」構成比が53.3%と最も高く、ビルダーを中心とした受講者が多い状況を伺わせ、大阪では鉄筋コンクリート建築物12.2%など多様な建築構造物を取り扱っている業態からの参加が多い。



８．１年間に取り扱った住宅棟数（軸組）

全国平均をみると、年間５棟以下が44.5%（６年度42.1%、５年度39.8%）と最も多く、次いで６～10棟が14.4%（６年度15.1%、５年度13.8%）となっている。０棟（不明を含むが）構成比は27.6%（６年度29.6%、５年度29.0%）であった。

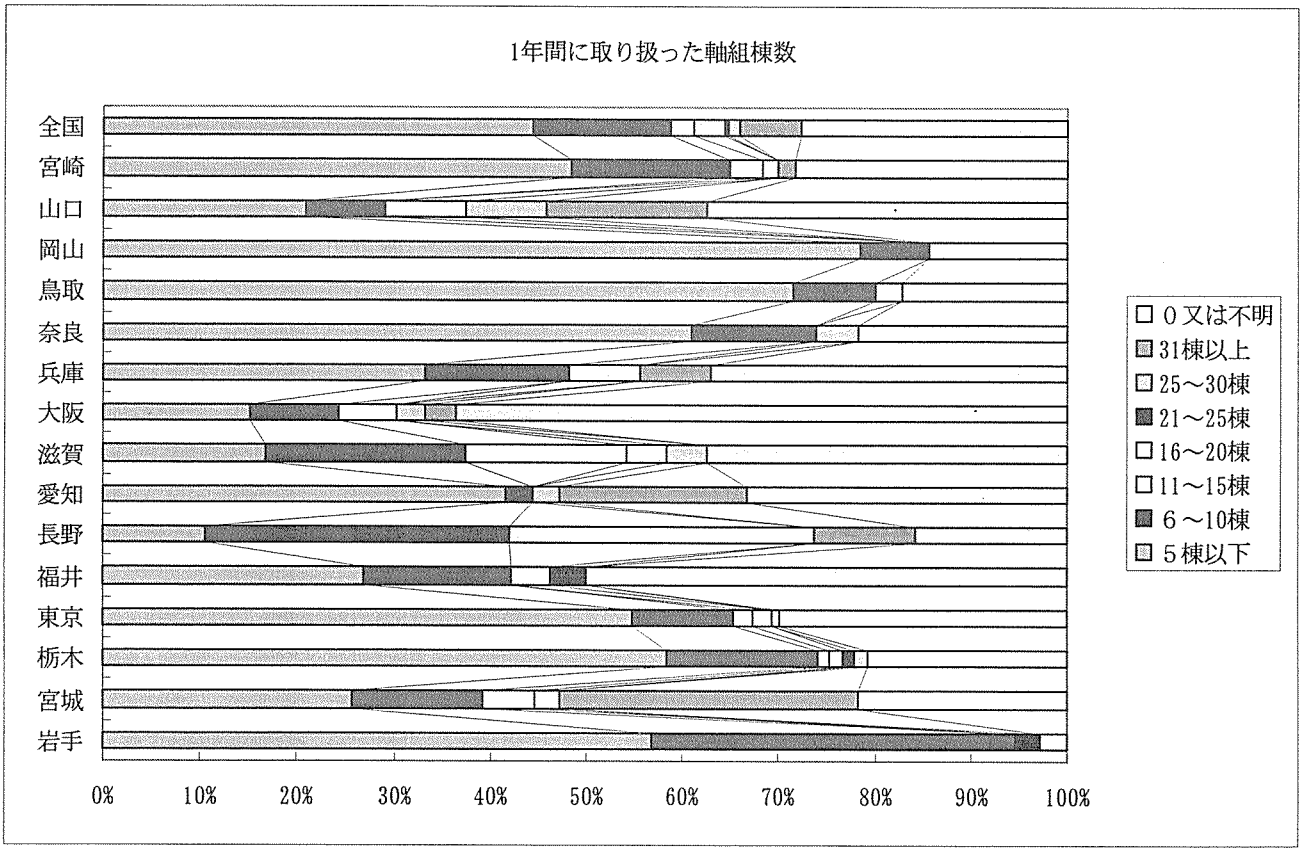
５棟以下構成比の高い地域をみると、岡山78.6%、鳥取71.4%、奈良60.9%、栃木58.4%の順となっている。

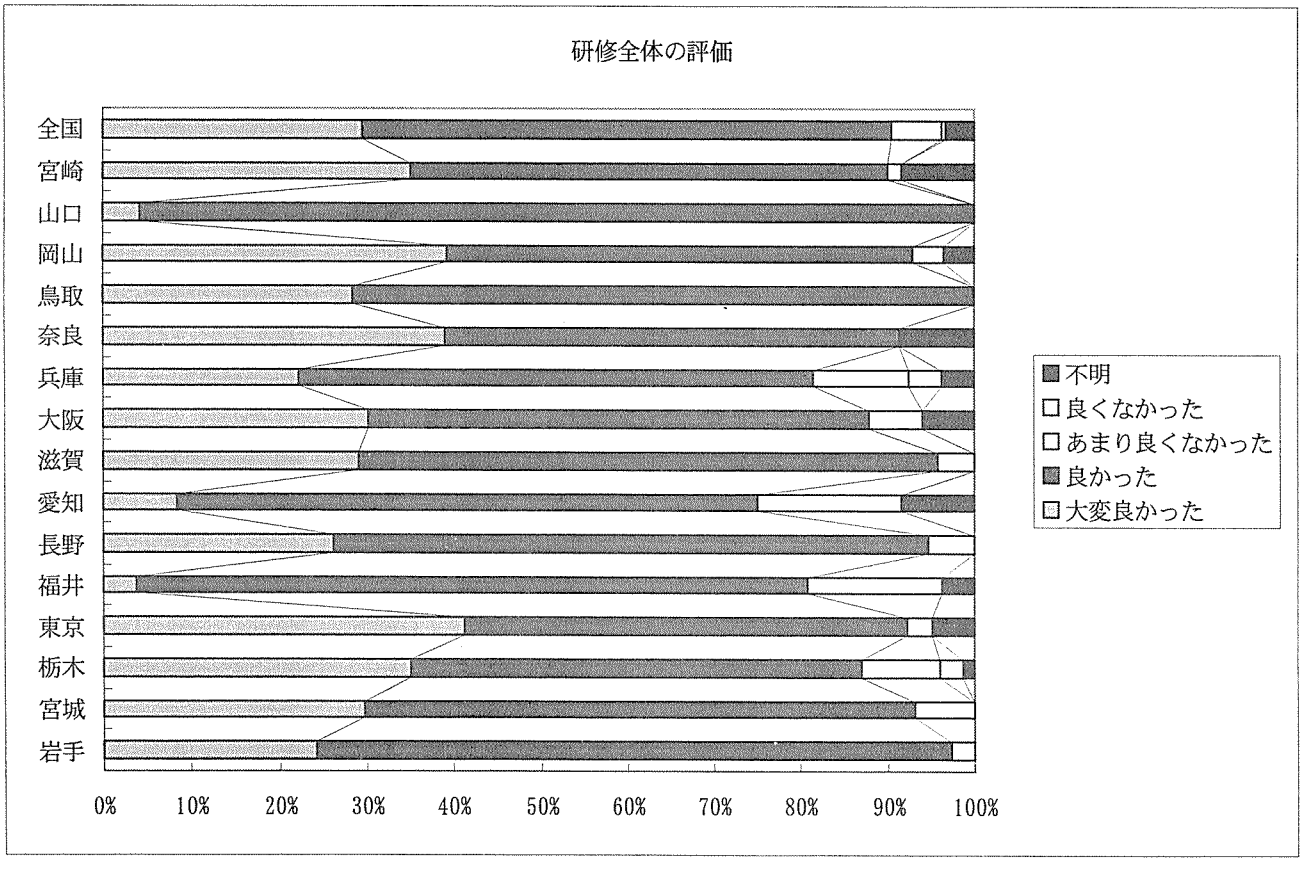
また、全国平均での２×４をみると、０棟（不明を含む）構成比が最も高く92.2%（６年度95.0%、５年度92.0%）となっている。

９．研修全体への評価

研修全体への評価としては、全国平均では「良かった」が61.1%（６年度58.9%、５年度62.8%）と最も高く、「大変良かった」の29.5%（６年度21.5%、５年度26.7%）と合わせると受講者の90.6%（６年度80.4%、５年度89.5%）となっており、極めて高い評価を受けている。因みにこの３年間の評価平均では86.8%となっており、研修開催の意義は高かった、ということができる。

逆に「あまりよくなかった」をみると5.6%（６年度9.2%、５年度7.6%）と「良くなかっ


1年間に取り扱った軸組棟数
全国
宮崎
山口
岡山
鳥取
奈良
兵庫
大阪
滋賀
愛知
長野
福井
東京
栃木
宮城
岩手
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
0又は不明
31棟以上
25～30棟
21～25棟
16～20棟
11～15棟
6～10棟
5棟以下


研修全体の評価
全国
宮崎
山口
岡山
鳥取
奈良
兵庫
大阪
滋賀
愛知
長野
福井
東京
栃木
宮城
岩手
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
不明
良くなかった
あまり良くなかった
良かった
大変良かった

た」0.5％（6年度0.7％、5年度0.4％）を合わせた研修に対するマイナス評価は6.1％（6年度9.9％、5年度8.0％）となっており、最終年に最も高い評価を受けていることがわかる。

ある意味で、主催者側が恐れた「マンネリ感」は払拭されていることがわかる。

その理由を想定してみると、

①主催事務局と地域主催者の連携、コンサルティングが充実したこと。

②開催地域を絞りこむことによって、地域主催者側に「惰性」感が薄れたこと。

③阪神・淡路大震災後の木造住宅業界の危機意識が反映したこと。

④地域主催者の変更等による活性も生じたこと。

⑤プログラムを絞りこんだ研修会が多く、聴講者ニーズに対応でき満足度が上昇したこと。

等を指摘することができるだろう。

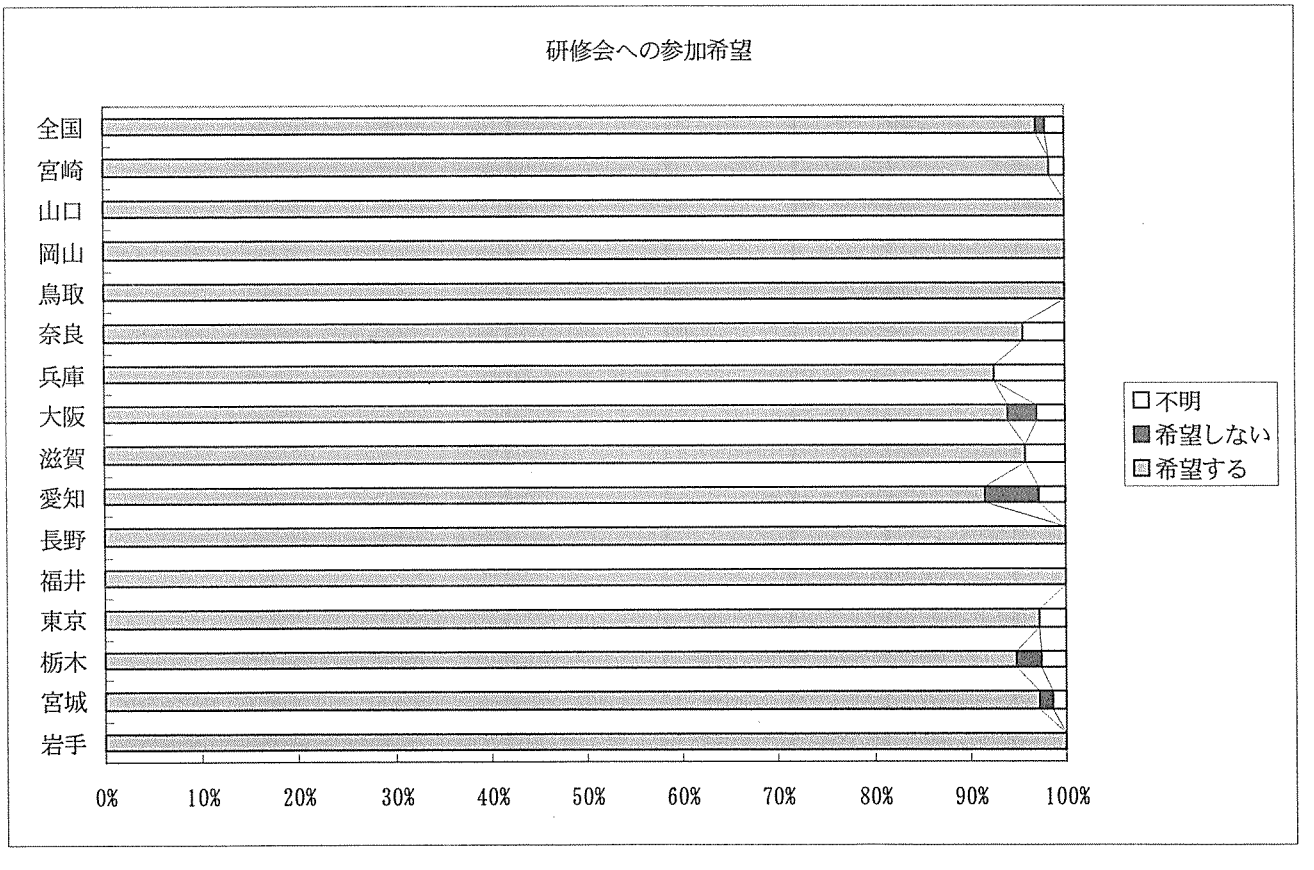
本年度は特に阪神・淡路大震災後の開催ということもあり、そうした耐震設計・施工カリキュラムも含め、担い手に対する実務情報の提供、といったニーズに対応した研修会となった、ということができるだろう。

また、マイナス評価では「期待していたものと内容が違った」が最も多かった。

10．研修参加希望

本研修事業は、今年度で終了したが、参加者に「来年度もこの研修を希望するか」を聞いたところ、全国平均でみると、来年度も研修を「希望する」が97.0％（6年度86.8％、5年度89.3％）と最も高く、「希望しない」は1.0％（6年度6.6％、5年度6.8％）であった。

実に根強い研修希望があることが理解されるが、今後こうした木造住宅の担い手研修をどのような視点で進めていくのかを次章において総括することとする。



参加回数

	岩手	宮城	栃木	東京	福井	長野	愛知	滋賀	大阪	兵庫	奈良	鳥取	岡山	山口	宮崎	全国
初めて	100.0%	90.8%	64.1%	68.0%	53.3%	100.0%	81.1%	66.7%	50.0%	0.0%	11.9%	74.3%	71.9%	20.6%	58.2%	62.8%
平成６年	0.0%	2.6%	26.9%	10.4%	23.3%	0.0%	13.5%	22.2%	0.0%	0.0%	26.2%	22.9%	3.1%	38.2%	13.9%	13.7%
平成５年	0.0%	3.9%	1.3%	10.4%	20.0%	0.0%	2.7%	7.4%	36.8%	0.0%	16.7%	0.0%	15.6%	17.6%	10.1%	9.2%
平成４年	0.0%	2.6%	1.3%	6.4%	3.3%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	19.0%	0.0%	6.3%	11.8%	8.9%	4.7%
平成３年	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%	13.2%	0.0%	23.8%	0.0%	3.1%	5.9%	7.6%	4.2%
不明	0.0%	0.0%	6.4%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	2.4%	2.9%	0.0%	5.9%	1.3%	5.3%
回答数	37	76	78	125	30	19	37	27	38	27	42	35	32	34	79	716

過去に開催されていたこと

	岩手	宮城	栃木	東京	福井	長野	愛知	滋賀	大阪	兵庫	奈良	鳥取	岡山	山口	宮崎	全国
知っていた	18.9%	23.0%	42.9%	34.6%	38.5%	5.3%	19.4%	25.0%	48.5%	0.0%	78.3%	54.3%	25.0%	70.8%	40.0%	34.8%
知らなかった	81.1%	77.0%	57.1%	62.5%	61.5%	94.7%	80.6%	75.0%	51.5%	0.0%	17.4%	45.7%	75.0%	25.0%	58.3%	60.0%
不明	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	4.3%	0.0%	0.0%	4.2%	1.7%	5.3%
回答数	37	74	77	104	26	19	36	24	33	27	23	35	28	24	60	627

参加できなかった理由

	岩手	宮城	栃木	東京	福井	長野	愛知	滋賀	大阪	兵庫	奈良	鳥取	岡山	山口	宮崎	全国
仕事のため	18.9%	10.8%	18.2%	10.6%	11.5%	5.3%	2.8%	8.3%	6.1%	0.0%	4.3%	25.7%	7.1%	37.5%	10.0%	12.1%
興味がなかった	0.0%	0.0%	2.6%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	5.7%	0.0%	4.2%	0.0%	1.3%
その他	0.0%	5.4%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	6.1%	0.0%	0.0%	2.9%	3.6%	4.2%	1.7%	2.4%
不明	0.0%	8.1%	26.0%	1.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.7%	33.3%	3.3%	6.9%
非該当	81.1%	75.7%	53.2%	82.7%	88.5%	94.7%	88.9%	91.7%	84.8%	100.0%	91.3%	65.7%	78.6%	20.8%	85.0%	77.4%
回答数	37	74	77	104	26	19	36	24	33	27	23	35	28	24	60	627

勤務先業種（複数回答）

	岩手	宮城	栃木	東京	福井	長野	愛知	滋賀	大阪	兵庫	奈良	鳥取	岡山	山口	宮崎	全国
工務店（従業員９名以内）	52.5%	17.1%	43.0%	52.3%	19.2%	5.3%	16.7%	11.5%	30.3%	32.1%	34.8%	25.0%	46.7%	16.7%	35.5%	33.3%
工務店（従業員10名以上）	10.0%	23.2%	0.0%	6.4%	19.2%	52.6%	11.1%	3.8%	9.1%	3.6%	0.0%	5.6%	6.7%	41.7%	8.1%	11.1%
大工職	27.5%	3.7%	33.7%	20.2%	0.0%	10.5%	27.8%	7.7%	6.1%	28.6%	43.5%	55.6%	30.0%	0.0%	43.5%	23.5%
木材・製材業	0.0%	8.5%	4.7%	0.9%	23.1%	15.8%	30.6%	30.8%	6.1%	14.3%	4.3%	0.0%	3.3%	8.3%	0.0%	7.6%
設計事務所	2.5%	7.3%	5.8%	6.4%	3.8%	5.3%	2.8%	11.5%	6.1%	7.1%	4.3%	0.0%	3.3%	0.0%	3.2%	5.0%
プレハブ住宅業	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.3%
建材業	0.0%	23.2%	2.3%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	15.2%	0.0%	4.3%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	4.5%
建築設備業	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	4.2%	0.0%	0.8%
不動産業	0.0%	4.9%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	1.4%
その他	2.5%	12.2%	5.8%	11.9%	30.8%	10.5%	11.1%	19.2%	27.3%	10.7%	4.3%	13.9%	3.3%	12.5%	4.8%	11.1%
不明	5.0%	0.0%	2.3%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	8.3%	3.2%	1.5%
回答数	40	82	86	109	26	19	36	26	33	28	23	36	30	24	62	660

従事している仕事（複数回答）

	岩手	宮城	栃木	東京	福井	長野	愛知	滋賀	大阪	兵庫	奈良	鳥取	岡山	山口	宮崎	全国
経営	27.0%	12.3%	16.1%	28.4%	13.0%	12.5%	5.4%	16.3%	22.0%	16.7%	19.1%	23.1%	24.1%	2.8%	21.6%	19.2%
施工・技能	46.0%	14.0%	47.3%	33.5%	8.7%	25.0%	30.4%	10.2%	6.8%	35.4%	38.3%	35.4%	38.9%	8.3%	40.9%	30.1%
工事管理	12.7%	19.3%	11.6%	17.8%	19.6%	33.3%	19.6%	20.4%	13.6%	14.6%	8.5%	12.3%	16.7%	33.3%	11.4%	16.4%
営業・販売	0.0%	26.3%	4.5%	3.0%	13.0%	12.5%	19.6%	20.4%	35.6%	8.3%	6.4%	3.1%	3.7%	5.6%	3.4%	10.2%
設計	11.1%	16.7%	9.8%	7.6%	17.4%	12.5%	12.5%	16.3%	8.5%	8.3%	19.1%	12.3%	9.3%	25.0%	10.2%	12.0%
積算	1.6%	6.1%	6.3%	7.1%	6.5%	4.2%	8.9%	8.2%	3.4%	0.0%	4.3%	6.2%	5.6%	19.4%	4.5%	6.0%
調査・企画	0.0%	3.5%	0.9%	0.5%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	6.3%	2.1%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	1.5%
教育・行政	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.0%	0.0%	0.0%	6.1%	1.7%	8.3%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%
その他	1.6%	1.8%	2.7%	1.5%	6.5%	0.0%	3.6%	2.0%	3.4%	2.1%	2.1%	4.6%	1.9%	0.0%	0.0%	2.2%
不明	0.0%	0.0%	0.9%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.0%	0.9%
回答数	63	114	112	197	46	24	56	49	59	48	47	65	54	36	88	1058

あなたの現在の立場

	岩手	宮城	栃木	東京	福井	長野	愛知	滋賀	大阪	兵庫	奈良	鳥取	岡山	山口	宮崎	全国
親の跡を継ぐ二世	27.0%	12.2%		41.3%	23.1%	5.3%	33.3%	29.2%	21.2%	29.6%	30.4%	22.9%	53.6%	12.5%	20.0%	31.6%
二世ではないが会社の跡を継ぐ	0.0%	1.4%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	6.7%	2.0%
二世を助けていく営業幹部	2.7%	5.4%		10.6%	0.0%	0.0%	2.8%	4.2%	6.1%	0.0%	13.0%	8.6%	7.1%	4.2%	8.3%	6.7%
二世を助けていく技術・技能幹部	8.1%	5.4%		12.5%	11.5%	5.3%	8.3%	0.0%	3.0%	11.1%	13.0%	14.3%	17.9%	0.0%	8.3%	9.8%
従業員	32.4%	58.1%		5.8%	42.3%	68.4%	50.0%	25.0%	33.3%	18.5%	0.0%	20.0%	0.0%	66.7%	25.0%	34.2%
その他	13.5%	12.2%		17.3%	19.2%	15.8%	2.8%	29.2%	27.3%	18.5%	21.7%	25.7%	14.3%	12.5%	16.7%	18.9%
不明	16.2%	5.4%		12.5%	3.8%	5.3%	2.8%	4.2%	9.1%	18.5%	21.7%	8.6%	7.1%	0.0%	15.0%	10.7%
回答数	37	74	0	104	26	19	36	24	33	27	23	35	28	24	60	550

取り扱っている建築構造の種別（複数回答）

	岩手	宮城	栃木	東京	福井	長野	愛知	滋賀	大阪	兵庫	奈良	鳥取	岡山	山口	宮崎	全国
木造建築物（軸組）	90.2%	81.5%		71.8%	65.5%	76.0%	60.8%	63.3%	49.0%	74.2%	76.9%	86.8%	93.3%	43.3%	84.1%	84.4%
木造建築物（２×４工法）	4.9%	2.5%		4.0%	0.0%	8.0%	13.7%	3.3%	10.2%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	53.3%	4.8%	6.8%
プレハブ建築物	0.0%	1.2%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.2%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	1.2%
鉄筋コンクリート建築物	2.4%	4.9%		11.3%	13.8%	4.0%	9.8%	10.0%	12.2%	6.5%	7.7%	2.6%	0.0%	0.0%	3.2%	7.1%
鉄骨建築物	2.4%	3.7%		6.5%	3.4%	12.0%	11.8%	3.3%	8.2%	6.5%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	4.8%	5.1%
その他	0.0%	1.2%		2.4%	13.8%	0.0%	0.0%	6.7%	6.1%	0.0%	3.8%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%
不明	0.0%	4.9%		4.0%	3.4%	0.0%	3.9%	13.3%	6.1%	12.9%	11.5%	2.6%	0.0%	3.3%	3.2%	5.1%
回答数	41	81	0	124	29	25	51	30	49	31	26	38	30	30	63	648

１年間に取り扱った住宅棟数（軸組）

	岩手	宮城	栃木	東京	福井	長野	愛知	滋賀	大阪	兵庫	奈良	鳥取	岡山	山口	宮崎	全国
５棟以下	56.8%	25.7%	58.4%	54.8%	26.9%	10.5%	41.7%	16.7%	15.2%	33.3%	60.9%	71.4%	78.6%	20.8%	48.3%	44.5%
６～10棟	37.8%	13.5%	15.6%	10.6%	15.4%	31.6%	2.8%	20.8%	9.1%	14.8%	13.0%	8.6%	7.1%	8.3%	16.7%	14.4%
11～15棟	0.0%	5.4%	1.3%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	2.4%
16～20棟	0.0%	2.7%	1.3%	1.9%	3.8%	31.6%	0.0%	4.2%	0.0%	7.4%	0.0%	2.9%	0.0%	8.3%	1.7%	3.0%
21～25棟	2.7%	0.0%	1.3%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
25～30棟	0.0%	0.0%	1.3%	1.0%	0.0%	0.0%	2.8%	4.2%	3.0%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	1.3%
31棟以上	0.0%	31.1%	0.0%	0.0%	0.0%	10.5%	19.4%	0.0%	3.0%	7.4%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	1.7%	6.4%
０又は不明	2.7%	21.6%	20.8%	29.8%	50.0%	15.8%	33.3%	37.5%	63.6%	37.0%	21.7%	17.1%	14.3%	37.5%	28.3%	27.6%
回答数	37	74	77	104	26	19	36	24	33	27	23	35	28	24	60	627

１年間に取り扱った住宅棟数（２×４）

	岩手	宮城	栃木	東京	福井	長野	愛知	滋賀	大阪	兵庫	奈良	鳥取	岡山	山口	宮崎	全国
５棟以下	5.4%	0.0%	50.0%	1.0%	0.0%	42.1%	2.8%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	5.7%	100.0%	8.7%	1.7%	3.8%
６～10棟	0.0%	0.0%	50.0%	1.9%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.7%	1.7%	1.3%
11～15棟	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
16～20棟	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
21～25棟	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
25～30棟	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
31棟以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	34.8%	0.0%	2.1%
０又は不明	94.6%	100.0%	0.0%	97.1%	100.0%	52.6%	94.4%	95.8%	90.9%	100.0%	100.0%	94.3%	0.0%	47.8%	96.6%	92.5%
回答数	37	74	2	104	26	19	36	24	33	27	23	35	1	23	59	523

研修全体の評価

	岩手	宮城	栃木	東京	福井	長野	愛知	滋賀	大阪	兵庫	奈良	鳥取	岡山	山口	宮崎	全国
大変良かった	24.3%	29.7%	35.1%	41.3%	3.8%	26.3%	8.3%	29.2%	30.3%	22.2%	39.1%	28.6%	39.3%	4.2%	35.0%	29.5%
良かった	73.0%	63.5%	51.9%	51.0%	76.9%	68.4%	66.7%	66.7%	57.6%	59.3%	52.2%	71.4%	53.6%	95.8%	55.0%	61.1%
あまり良くなかった	2.7%	6.8%	9.1%	2.9%	15.4%	5.3%	16.7%	4.2%	6.1%	11.1%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	1.7%	5.6%
良くなかった	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
不明	0.0%	0.0%	1.3%	4.8%	3.8%	0.0%	8.3%	0.0%	6.1%	3.7%	8.7%	0.0%	3.6%	0.0%	8.3%	3.3%
回答数	37	74	77	104	26	19	36	24	33	27	23	35	28	24	60	627

研修全体の評価が「あまり良くなかった」「良くなかった」と答えた理由（複数回答）

	岩手	宮城	栃木	東京	福井	長野	愛知	滋賀	大阪	兵庫	奈良	鳥取	岡山	山口	宮崎	全国
内容が抽象的でよく分からない	0.0%	0.0%	2.6%	1.9%	3.8%	5.3%	5.6%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%
既に知っていたことが多い	2.7%	4.1%	1.3%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%
期待していたものと内容が違った	0.0%	1.4%	3.9%	0.0%	3.8%	0.0%	5.6%	0.0%	3.0%	11.1%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	1.7%	2.1%
内容が難しすぎた	0.0%	0.0%	3.9%	1.0%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
その他	0.0%	1.4%	0.0%	1.0%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
	0.0%	0.0%	3.9%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	5.0%	1.4%
不明	97.3%	93.2%	84.4%	96.2%	84.6%	94.7%	83.3%	95.8%	93.9%	85.2%	100.0%	100.0%	89.3%	100.0%	93.3%	92.5%
回答数	37	74	77	104	26	19	36	24	33	27	23	35	28	24	60	627

今後もこのような研修を希望するか

	岩手	宮城	栃木	東京	福井	長野	愛知	滋賀	大阪	兵庫	奈良	鳥取	岡山	山口	宮崎	全国
希望する	100.0%	97.3%	94.8%	97.1%	100.0%	100.0%	91.7%	95.8%	93.9%	92.6%	95.7%	100.0%	100.0%	100.0%	98.3%	97.0%
希望しない	0.0%	1.4%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
不明	0.0%	1.4%	2.6%	2.9%	0.0%	0.0%	2.8%	4.2%	3.0%	7.4%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	2.1%
回答数	37	74	77	104	26	19	36	24	33	27	23	35	28	24	60	627

第３章　研修事業の総括

１．本事業の成果

既に受講者のアンケート調査結果等から、本研修事業は高い評価を得ているわけであるが、本事業の成果をまとめると、以下のように列記することができる。

①木造住宅供給の中心的な担い手である小規模な大工・工務店従業員及び後継者に対して、現在の木造住宅の設計・施工において要求される知識・情報を継続的に提供しえたこと。

②普及期にある機械プレカット材を使用した住宅生産システムなどについての啓蒙的な知識・情報提供が行えたこと。

③高耐震木造住宅の設計・施工や高断熱・高気密工法や高齢化対応、高耐久住宅などこれからの木造住宅供給が対応しなければならない新しい概念や情報を提供しえたこと。

④地域における大工・工務店の現業者に対して、地域主催者を通じて地域毎の情報ニーズに対応した、研修会を開催してきたこと。

⑤これからの木造住宅生産において重要となる乾燥材知識の啓蒙とそれに連動した国産材に関する情報を提供し、国産材活用の情報提供が行いえたこと。

⑥地域主催者や地域講師において木材関係者も多く、木材供給者と木造住宅供給者とが共通の場において木造住宅振興につながる情報を共有しえたこと。

⑦国産材振興の面から木材側と住宅側とが連携した形での研修会を継続的に地域で行いえたこと。

⑧本研修事業を起爆剤として、地域において木造住宅の担い手育成の機関設立や育成方法についての検討が開始されていること。

等々を指摘することができる。

しかも、最も重要な点は、研修に参加した受講者の評価が極めて高く、かつ、継続的な参加を希求していることであり、本事業が木造住宅の担い手である現業者に対して果たした役割は極めて大きかった、ということができるだろう。

２．フォローしえなかった諸点について

本事業は一定の成果を見いだしているが、その一方で本事業が対象とした担い手育成の幅は極めて広く、フォローしえなかった部分もある。

例えば、初年度に行った高校生を対象とした担い手研修会の継続的な実施や、徒弟的な技能者養成に対する支援や消費者に対する木造住宅や国産材に対する啓蒙的な情報提供研修である。

担い手養成の幅は極めて広く、本事業ではより切実な部分であった、地域における小規模な大工・工務店の従業員及び後継者を中心とした現業者への知識・情報提供の要望が地域主催者を通じて高く、その面へと研修事業がシフトせざるをえなかった部分もある。

しかし、これによって、例えば阪神・淡路大震災被害等がもたらした木造住宅の設計・施工の考え方の緊急的な情報提供などを速やかに行うことが可能となり、その意味では現実の木造住宅の担い手に対してフレキシブルに研修内容を展開することが可能となった、ということができるだろう。

3．研修事業の課題

本事業の課題については、既に平成６年度の研修事業企画運営委員会報告書において以下のような指摘がなされている。

３－１．研修事業の継続性

補助事業である本研修事業は、平成７年度をもって終了することとなっているが、本事業が既に４年間にわたる実績を持ち、受講者からの評価も高く、地域における木造建築担い手たちの重要な情報・知識吸収の場として定着をはじめている点からも、何らかの形での継続性が求められるといえよう。

そのためには、本事業成立の背景である木材産業と木造住宅産業との連携強化という視点から、新たな時代的な要請に対応した木造住宅の供給のための担い手育成をどのように展開していくのか、というプログラムの検討が必要となっている。

そのためにもバックグラウンドとなる木材・住宅連携を明快とするような息の長い「地域住宅・木材センター」事業的な部分での事業づくりの一環としての研修事業も今後必要とされてくるといえよう。

３－２．研修事業の意味

木造建築担い手養成といっても様々なアプローチの方法が存在する。本事業では、当初、若者を対象とした「未熟練」技能者のステップアップを目的とするような部分も存在したが、現実に研修をすすめる中で、アンケート結果にもあるように、むしろ現在の木造住宅を担う人々が積極的に参加していることがわかる。また、当初は技能者を中心として研修事業は想定されていたが、これも技能者だけではなく、経営者や管理者などの参加も多い(但し、小規模な業態が多いためにこのいずれにも該当する聴講者は存在する)。

そうした意味では、むしろ現在の木造住宅を担う人々が積極的にこの研修事業に参加しているということができる。

その意味で、本事業は明確に地域に存在する木造住宅のあらゆる担い手のための研修、という形になってきた、ということができる。

ある意味では参加対象者を絞り切れていない、という見方もできるが、むしろ、現実的には多様な木造住宅の担い手たちが、切実にそうした研修受講を望んでいた、と考えるべきであろう。

そこで、本事業の継続を考える場合、より積極的な形でこの研修を位置づけ、地域における多様な木造住宅の担い手たちに対して、一定の知識・情報を提供する木材・住宅研修センターとしての役割を担うべき、というこ

とができよう。

3－3．研修事業の方向性

そのためには、地域における木材・住宅連携を中心としつつ、地域受講者ニーズに柔軟に対応しつつも、年毎に啓蒙普及上の「キャンペーン」的な講座を中心とした研修事業を展開することが望ましい。

例えば、平成7年1月17日に発生した阪神大震災は、木造住宅に対して大きな見直し機運を与えた。即ち、木造住宅に対する耐震施工等の問題である。また、木造住宅に対する大きな誤解も生じている中で現業の木造住宅の担い手に対して、設計・施工の考え方のみならず住まい手に対する理論武装等の必要性も高まっている。

そこで、この耐震設計・施工知識の啓蒙を中心としてカリキュラム編成を行う、といった方法が考えられる。

つまり、トピックス講座＋地域受講者要望講座といった形でのカリキュラム編成を今後想定していく必要があろう。

これが、研修型の方向性とならざるを得ない、と考えられる。

4．地域主催者の役割

本事業のこれまでを見ると、本事業の意義を深く認識した地域主催者と地域行政者が存在しているところでより積極的な展開を見ることができる。

その意味では、やはり地域において本事業の受け皿となり、地域における担い手研修のニーズを吸収し、それを企画化していくプロデューサー的な人材が不可欠である。

そうした人たちが、絶えず県行政のアンテナに触れるという可能性は実はそれほど高くない。その意味では、受け皿としての組織は小さいが、地域木造にとって真に波及効果の高いことを実施している組織・団体に対して、積極的に地域主催者として本事業を活用するようなあり方を検討する必要がある。また、そうした小規模な組織・団体のネットワーク化を進め、プロデューサーだけでなく、地域講師としての役割を担ってもらうような方法が必要である。この場合、ある意味で動員数は限られる部分があるので、こうした研修をさらに行政側で広報としてバックアップするようなシステムづくりもまた必要となる。

その意味では、これまでも研修の開催そのものが必ずしも「広報」されているとは言いがたい面もあり、今後これらの活動をどのように展開し、より多くの担い手たちに参加の機会を与えるのかも大きな検討課題であるといえよう。

とまとめているが、基本的な視点は最終年度においても変わらない。

しかし、問題は本事業年度の終了に当たって、本事業の意義とその拡大的な発展が望まれていることも事実であり、以下本事業の拡大的な継続について検討を行う。

4．本事業の拡大的継続の視点

4－1．本事業の果たす役割

木造住宅の担い手である技能者数が将来的に減少傾向にあることは否定しえない事実である。しかも、この減少化傾向に最も大きなダメージを被るのが木造住宅供給を中心的に担っている大工・工務店である。木造戸建て住宅市場において8割程度のシェアを持つためにその技能者減少の影響を最も被るためであるが、これら大工・工務店はまた、国産材の住宅分野での

活用を中心的に担っている業態でもある。

従って、大工・工務店の後継技能者の減少はわが国の国産材活用においても深刻なダメージを与えると言わざるをえない。

また、大工・工務店の市場シェアの減衰は、技能者養成を一手に引き受けていた業態の衰退を意味する。また、大工・工務店の市場シェアの減衰は国産材そのものの最大の客先を逸していくことにもつながる。

従って、そうした技能者の養成は、日本の林業や木材業の根本的な問題に直結する重要な点であり、現在の状況からすると、これ以上の技能者の参入比率の減少や転廃業を防ぎ、大工・工務店の従業員や後継者が生き生きと生産活動に従事しえる環境を整備する、という面からも大工・工務店に対する支援活動が何らかの形で必要とされているといえよう。

その意味からすると、本事業の果たす役割は大きくは以下のように捉えることができる。

①大工・工務店の従業員及び後継者等現業者に対して、恒常的な知識・情報を供与していること。

②新規参入希望者に対しての研修支援を行うこと。

③木材側と木造住宅側とが共同して、後継技能者を養成する場を提供すること。

等となる。

つまり、現業者に対する支援と新規参入者に対する支援が本事業の継続のポイントとなる。

しかし、これまでのような研修事業だけではなく、次のような方法での研修事業をも射程に入れる必要がある。

これまでの受講者アンケートをみると、本研修の受講機会を逃した理由としては、「知らなかった」と「仕事のため」に大きく分けることができる。つまり、これからの研修の方法としては、そうした時間に左右されない情報提供のあり方も必要であり、例えば

①インターネットを活用した知識・情報の供給事業

②ビデオ等を活用した知識・情報の供給事業

③それらを統括したスクーリング事業

等々が想定できる。これによって、受講者は自らが必要と考える研修に任意に参加することが可能となる。また、より広い形での告知が可能となり研修を知らず受講したくても出来ない、という形を防ぐことがやや可能となる。

４－２．最も重要な支援策

現実的に技能者を養成したい、という意欲を持つ工務店経営主は多い。また、現在既に認定を受けたり、私塾として技能者の養成訓練を行っている工務店経営主も存在している。

そうした、熱意ある養成者に対して、一定の資金やカリキュラムづくり、講師派遣等の支援を実施することは、ある意味で担い手研修事業とは異なるものの、担い手の育成という視点からすると最も必要となっている支援策であるともいえる。

全国から、担い手の養成訓練を行っている人々に対して、その内容等をチェックし、支援先を決定していくやり方や技能者養成・訓練を志す工務店等に対してその内容を検討し、訓練機

関設立に対する支援を行う、といった事業展開が一方で緊急的に求められている、ということができるだろう。

５．拡大発展の視点

５－１．中学校・高等学校の教員に対する研修の必要性

これまで、大工・工務店を中心とした担い手事業を検討してきたが、木造住宅振興及び国産材振興の視点からは、もう少しすそ野を広げる形での事業展開も望まれる。

中学、高等学校カリキュラムにおいては住居教育の時間もあるが、現実的には教師は住居において何を教えたらよいか困惑している部分もある。こうした指導教員を対象に木造住宅や木材についての研修会を実施し、教育の場において木造住宅や木材についての知識を啓蒙してもらい、将来的な消費者教育のみならず、担い手希望者を醸成していく、といった活動も一方では求められている。

中学や高等学校の教員に対しての研修は夏休みなどに実施し、彼らの研修活動の一貫として位置づけてもらうような方向性を取る必要がある。

５－２．技能者の中学校・高等学校への臨時講師派遣

上記のような授業において、現業者がボランティアとして「木造住宅」の授業を行っている例が増加している。また、団体として「学校授業」に全面的なバックアップ体制をとっている組織もある（資料１～５参照）。

このような形でのバックアップによって、担い手を醸成するような環境づくりが可能となる。また、木造住宅技能者だけではなく、林業後継者への新たな育成的な視点も付加することが可能となる、ということができるだろう。

先駆者として高い評価の長野県連

かんな削りに歓声が

教師をたてて〝お手伝い〟

飯下連連

【本部・信太記者】中学校の木材加工授業での技術指導の取り組みの先駆者として「学校教育協力巡回」を手がけ、高い評価を受けているのが、長野県連（居沢平治委員長）です。現在では県連傘下十九単組中、十二組合が取り組むようになっています。

県連では、文部省が新指導要領を打ち出した直後から、自助努力による勤務条件・職場環境の改善とともに、木のよさを理解させる指導の充実を求める指導運動の実施を決定。

県連傘下組合の中でも飯下連連は、竹村好会長（大工）を中心に、岡村武司、矢沢賢司、安達成吉（以上大工）、湯沢力（表具）、富永博道（タイル）、小笠原倫（鉄筋）各副会長が率先して、この運動に力を入れていきました。

今では上伊那地労と並んで運動を大規模に取り組んでいる組合の一つ。平成四年六月から、今年二月までの間に指導した生徒はのべ千三百二十七人、アドバイザーとして携わった組合員は三百六十六人にのぼります。

飯下連連では、長野県連が学校教育の基本方針と具体的取り組み計画を提起したことを受け、平成三年九月、地域内の市町村議と組合三役による懇談会を開催。以降も教育委員会、中学校長、技術担当教師らを交え会を重ねました。

中には以前、水泳の時間に専門の指導員を呼んだところ、生徒が先生そっちのけでそちらへ行ってしまったことを理由にして、絶対に拒絶し、という反応を示す学校もあったといいます。「学校教育の『改善』という大それたものではなく、あくまでもお手伝い」。学校の先生をたてながら進めている」（竹村会長）のは、こうした感念への対策でもあります。

そして平成四年六月、最も対応の早かった豊岡中学校で第一回目の「お手伝い」を行いました。

この時は、十人のアドバイザーがかんな削りについて、三十五人の生徒を指導。模範削りをみて歓声を挙げた生徒たちからは「体験できない同級生は気の毒」と手応えは上々、教師からも「自分にとっても勉強になる。今後も続けてほしい」。最初は冷ややかだった校長も、好意的な態度を見せるようになったといいます。

飯下連連が指導に際して気をつけている点は、材料・道具をきちんと揃えること。「覚え刃式のカンナは使わない。刃を研ぐという基本を大切にしたい。基本を知ってこそ応用ができる」（安達さん）、「とにかく下準備が大変。二日間かかる」（小笠原さん）。教え始めの頃はカンナを調整するのに刃を直接叩く生徒もいたとのことですが、二年目からは道具も大切に扱うようになりました。

また県連の方針に従い支部ごとに指導を実施しているため、予算も各支部ごと。校内や生徒の前での禁止事項を集めた「でからず集」を作成している支部もあります。

教える自分自身が建築職人

という職業に自信持たねば

こうした努力の甲斐あって、初年度は二校の指導だった取り組みが、五年度には五校、六年度は八校と増加。当初から事業に好感を持っていた県知事はもちろん、気乗り薄だった県教育委も高く評価するようになりました。まだ不十分な部であるものの、予算措置が講じられるようになる（富永さん）、

役員の皆さんからは「本来の職人気質に戻る気がする。生徒も教育長も生き生きしてくるので、こちらもうれしくなる（富永さん）、「一人のアドバイザーで四～五人の生徒を指導するのできめ細かく指導でき、喜びが直接伝わる。先生を交えた反省会でも、このことで感謝される（矢沢さん）、「中学校の頃の進路指導は、将来にとって大切なもの。五～六年後が楽しみ」（岡村さん）という声が出されます。

地域に信頼される組織に

飯下の積極的な取り組みについては県連も認めているところです。「各単組の支部を組織運動体の核に、という県連組織強化方針の柱に従い、地域から信頼される組織づくりの一環として、支部がきちんと責任を果たしている点を高く評価している。こうした状態にもっていった本部役員の指導もたいしたもの。一連の取り組みには、今の教育の無味乾燥さを知っている親から、とてもいいことをしているといわれている（宮島県連書記）。

自治体の補助と国の支援を

今後の課題としては、県・市町村補助の獲得・増額と国による支援。みなさん共に「県連、金適組連とも一緒に、建設国保補助金獲得と同じように力を入れてほしい」と口を揃えます。

最後に、自身に対して自戒の念を込めながら語ってくれました。「息子たちは我われが本来の親父の姿を見せないと跡を継ごうとしない。生徒に対しても、教える自分たち自身が職人という職業に誇りを持つようにしなければ（湯沢さん）。

竹村さん

安達さん

富永さん

湯沢さん

小笠原さん

岡村さん

矢沢さん

大工の技を継ぐ

全国に広がる仲間の指導による『木材加工』の授業

「後継者対策」の一環として仲間が指導・アドバイスする中学校での「木材加工」の授業が全国的に広がっています。山形・茨城・埼玉・東京・長野・兵庫・香川・広島・島根の経験について、本号、次号の二回に分けて紹介します。

茨城・内原

故 市毛組合長を引き継いで

小手先の技術より〝木の匂い〟念頭に

飯島さん

【本部・信太記者】水戸市南部に隣接する内原町では、茨城県連・内原町建築施工組合が町立内原中学校で、実技指導を実施しています（『全建総連』一九九四年四月一日付で既報）。取り組み開始から三年目となった今年も、二月七日から二十二日までの五回、一年生の木材加工授業の補助員として、部品の木取り、部品のかんな削り、組み立ての指導を行いました。

内原建築では五時間連続の指導を年に三回実施し、木材加工授業へ積極的にかかわっています。こうした体制を確立させ、取り組みの中心人物として力を尽くした市毛茂前組合長は、昨年七月、肺がんで死去。現在は、飯島信太郎現組合長（57歳・大工）が指導を引き継いでいます。

二十五人いる指導員のうち、大工職以外も記録係として一回の授業で計五人ずつ、自費でつくった統一作業服をまとい指導します。

「木には匂いがある！この匂いを帯に頭におくようにと指導している。小手先の技術を教えるよりも大変」。

こうした姿勢は、学校、議会、教育委などからも評価されています。取り組み当初の校長は転出の際「この実技指導の火は絶対に消せない」と後任に申し伝え、その新任の校長も「資源のない日本には技能が必要だ」と前向き。町議会議長からは、取り組みを続け実績を積めば予算を組むことも可能といわれています。

また、三年生になると実施する職業体験学習では訪問先の一つに初めて木工作業所が設けられ、一年生の時に指導をうけた三人が飯島組合長のもとを訪れました。「これから先も変化しないのではないか。すぐにこの世界へはいらないにしても、なんらかの形で建設に関わりをもった職業につくはず」。

地元でライオンズクラブなどの役員も担当している飯島組合長は、実技指導を取り巻く状況についてこうした見方をしています。「以前は組合でも学校施設の無料修繕をしたり、ライオンズでも、何かモノなどを寄贈した、というものが活動の主だった。でも今は、もうカネ・モノだけの時代は過ぎ去った、行政でもできないものを、と考えるようになっている。時代がこう変ったから、この取り組みも成功している」。

内原中学校の教室

当初から内原の取り組みを見てきた茨城県連の平野秀男事務局長が「全建総連の規模からいえばまだ取り組む組合が少ない中で、内原がある。県連にとっても資質の向上につながること。内原に対しての県連の支援体制確立が課題だが、今後の広がりが楽しみ」と語れば「金銭的な個人負担があるが、報酬を期待していないからこそ地域で評価されていること。仕事とのやり繰りが大変でも、生徒の真剣さを見ていると欠席はできない」と飯島組合長。

内原建築のみなさんが小さな町に咲かせた花は、さらに大きく広がる気配を見せています。

父娘が同じ教室

後継者対策と位置づけ

当面 県下20校で教える

島根

須藤会長

津森さん

坂本さん

佐々木さん

「坂木優子のおっちゃんは、坂木優子と似ていた。一目みてわかった。家のつくり方や法隆寺の秘密も教えてもらった。かなづちやかんなのけずりもプロ並みの手つきだった。

ぼくは一目見て、将来野球選手になりたいけどほんのちょっとだけ、大工になりたいと思った。そして、大工になったとしたら、坂本のおっちゃんに弟子入りさせてもらいたい。そして日本一の大工になる。おっちゃんは世界一の大工だった。

ぼくはおっちゃんがかんなけずりをやっているときや、かなづちをうつところを見て、どうしてあんなにプロいことができるのか不思議になった。坂本のおっちゃんが田村先生といっしょに先生をやってくれたらなあと思った。

すばらしい人だったおっちゃんは」（松江市立湖北中学一年二組山本雄太）

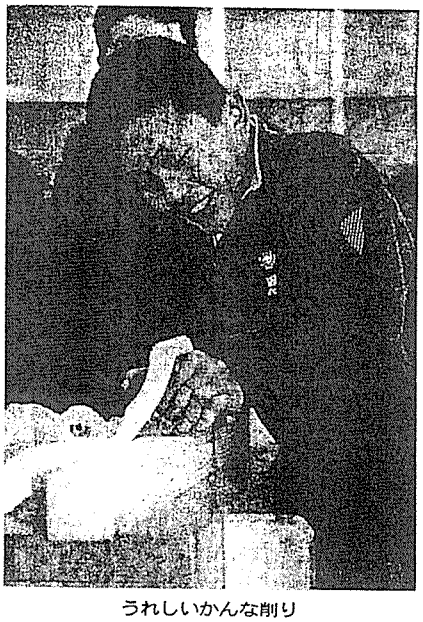
坂本優子ちゃんと作文を書いた山本君は同じクラスで、坂本のおっちゃんは優子ちゃんのお父さん・窓生さん（49歳・大工）のことです。坂木さんは松江市建築組合の住・技対部長です。

山本君の作文は昨年十一月三十日に湖北中学一年二組の「技術・家庭科」の授業で坂本さんと仲間の吉岡さんに指導してもらったときの感想です。

はじめ、父親が学校にくることを聞かされた優子ちゃんは「恥しいからこないで…、どうしもダメなら学校を休むから」とタタをこねね、窓生さんも「娘の前で教えるのはいやだなあ」と思ったそうですが、結局親娘とも自分の気持を抑えて、教え、学ぶことになったといいます。

松江市建築組合は現在、市内の本庄・湖北の両中学で「木材加工」の授業を指導していますが、ここまでこぎつけるまでのいきさつと島根県連全体の取り組みなどについて、坂本さんと津森強さん（47歳・大工＝副委員長）、佐々木聡さん（48歳・大工＝前住・技対部長）、島根県連事務局の木村英一さんは次のように話してくれました。

数年前から多くの仲間から「後継者不足」の悩みがきかされるようになり「なんとかならないものか」と須藤県連会長が中心になり、十一人の役員で「後継者対策委員会」を発足させ、訓練校のあり方や住み込みの問題などについて検討をはじめました。しかし、仲々これといった妙案が生まれませんでした。そんな折、長野県連が後継者対策の一つとして「学校教育」をスタートさせたことを耳にし、さっそく資料を取り寄せ検討した結果、「これならわれわれにもできる」ということになりました。


うれしいかんな削り

さっそく須藤会長以下役員のみなさんは県の教育長をたずねて趣旨を説明したところ「大変いいことだ」と賛成し「県からは指示できないので、みなさんが市町村に直接働きかけてください」と助言してくれ、組合ごとに地元の学校に申し入れることになったのです。

松江市では本庄中学の校長がたまたま技術・家庭科研究会の会長ということもあって、とんとん拍子に話が進み、組合と担当の先生と相談し実現させることができました。松江市だけではありません。今では県連傘下の十四の組合が二十校で取り組んでいます。

昨年十一月二十日から始まった本庄中学では、津森さん、佐々木さん、組合長の内藤敦夫さんが指導者となり「本立の作成、かんなの刃の調整の仕方、のこの引き方、かんなの削り方、さしがねの初歩」について教えました。

みなさんは体験した感想を異口同音に「一～二時間の勉強だけで子供たちが、将来、大工になってくれるとは思いませんが、今まで実際に見たり接したりしたことのなかった大工さんの姿を知ってほしいし、子供たちに木の暖かさを伝えたいのと在来工法に興味をもってくれればと思いました。できれば将来一人でも地元に残り職人になってくれればと思います」と述べています。

こうした島根県連の取り組みを評価し、県は今年度限りですが五十万円の助成をきめています（既報）。

須藤県連会長は「予算の関連もあり、当面、県内二十校の範囲で続けたいのと担当の先生方とも懇談して教える内容について相談したいと思っています。また県の助成金をこれからももっと出してもらうようにしたいと考えています」と語っていました。

兵庫・東播

先生、父兄も一緒に悪戦苦闘

「木造推進」「後継者対策」を地元で努力

一生懸命がんばる子供たち

【兵庫・小田垣賢次記】

一月二十日兵庫県但馬地域の小・中学校の授業の一環として実施されている「土曜ふれあい学級」において、木工教室の講師として私は豊岡市立新田小学校より依頼を受けました。

兵庫県連東播建設労組但馬支部としては、初めてのことであり、東部地区の仲間六人が出向きました。

当日の午前九時に先生、生徒、父兄全員が小学校の体育館に集合。学校長、PTA会長、生徒代表のあいさつの後、みんなの前列に並び紹介を受けました。

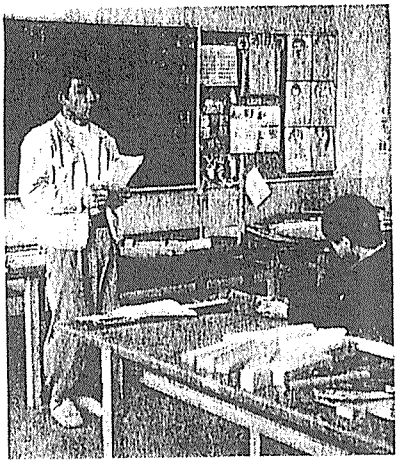
それぞれの教室に入り、イスづくりが始まりました。

まず、ノコギリの使い方、木の取り付け順を説明して取りかかりました。先生、父兄も一緒になり悪戦苦闘しました。二十～三十回もノコを引かないと切れないのに、私たちの仲間がすると五～六回で切れたり、クギを打つ回数も違うことに参加者からは「さすがプロは違うな…」の声。

そのなかで、ある三年生の男子の寸法を計る手つきが様になっている。ノコの切り口もスマート、クギの打ち方もまずまず…。すごいなと思いつつ、お父さんの職業を聞くと、「大工です」の返事です。これにはまいったと思いましたが、納得しました。しっかり親の仕事を見ているのだなと頼もしさを感じる一幕もありました。

十一時二十分にけがもなく無事終わりました。作品を前に生徒ひとりひとりから感想を述べてもらいました。

「簡単だと思ったが、つくってみたら難しかった」「ノコギリを使うのがうまくできなかった」「クギがうまく打てなかった」などなど…。



ちょっと緊張気味の仲間

物作りの喜び感じてもらう

父兄、先生からもお礼の言葉もあり、短時間でしたが物をつくる喜びを感じてもらうことができたと思います。

最後に組合員の仲間から「真剣に取り組めば、一本の板からこんなにすばらしいイスができるのです。今日の体験を勉強に生かしてがんばってください」としめくくりのあいさつをしました。

後日、「親切に指導していただきありがとうございました」と学校長からお礼の手紙が届きました。

今後も「木造住宅の推進」「後継者対策」に地元で力をつくすように努力したいと考えています。

教壇に立った仲間

地元テレビも収録 24人が中学で技術指導

埼玉・所沢

【埼玉土建】埼玉土建所沢支部では技術対策・住宅対策の両部と施工会が中心となり、所沢中学校中学一年の技術家庭科の『先生』として技術指導にあたりました。

これは市長・教育長・校長との話し合いを経て実現したもので、昨年四月から準備を始め、各分会から二十四人の仲間が三班に分かれて取り組みました。

担任の先生とも事故のないようにこまかい点まで話し合い授業にのぞみました。

初回は昨年七月十日に二クラスを、二回目は今年の二月十九日と二十日にそれぞれ一クラスで授業を行いました。

のこぎりやかんなの目的や性能、使い方などを教え生徒とともに汗を流しました。

担任に「市内でも優秀なみなさんで君たちの近くに住んでいる大先生が指導してくれます」と紹介され、仲間たちは照れながら教壇に立ちました。

生徒たちの技術も時間とともに目を見張るほど上達していきました。

生徒の一人は「おじさん先生の方が楽しいし分かりやすい、お父さんと一緒に勉強しているみたい」と話していました。

地元テレビの収録やほかの学校の先生の見学もあり、仲間たちも現場以上にみんな真剣で熱心でした。

「いつも廊下に立たされていたのに、今度は教壇に立つとは夢にも思わなかった」と学校を後にしながら仲間の顔は笑っていました。